

ルニ悉ク是ニ於テ價值ノ安定シテ通貨ヲ得ルコトが最大急務トナリテ、一九三三年十月ハロンドンバンクヲ設立命令トナシテ、ロンドンバンクト云フモノハ以前ニ存在シテカ、其ハ農業資金ヲ供給スル機關ナリテ、今度トハ大ニ異ル、同銀行ノ資本金ハ三億ポンド、ロンドンバンクノ其ノ半ハ農業者之ヲ供給シ、由農地ノ評價格ノ四〇%ニ相當スル額ヲ土地債務トシテ負擔シ、他ノ半ハ工業商業者カ土地債務若シテ債務證書ヲ以テスル債務ヲ負擔スルコトナリテ之ヲ供給シ、而シテ此資本金ヲ基礎トシテロンドンバンクハ三億ポンドニ億ポンドニ交換スルコトニ定メラレクノ價值ハ戦前ノポンドト同様ニシテ「ポンド」ハ紙幣「ポンド」ガ金貨「ポンド」ハロンドンバンク「ポンド」ニ代リテ政府ノ信用ヲ供給シ、紙幣「ポンド」ガ金貨「ポンド」ヲ以テ表示セラル、ロンドンバンクノ債券ニ引換ヘラレコト、ナラバ、斯クシテ獨逸ハ紙幣増發ノ慘害ヲ免レテ價值ノ安定ヲ得ル途カ開カレタ、一九三三年十月十五日ハ紙幣「ポンド」増發ガ全ク止リ、同日「獨逸經濟史上特筆スヘキ記念日」ナル。

紙幣ノ膨脹カ止リ後、半年即チ一九三三年十二月より一九三四年五月頃迄ノ獨逸經濟界ノ有様ハ悲慘モトテ、利息ハ割カラハ九歩ニ下リ、信用ハ急激ニ收縮シテ事業者ハ資本ニ究迫シ、物價ハ殆ト戰前程度近ク低落シテ、ロイヒスバンク總裁ニヤト氏ハ經濟界ノ回復ヲ速進スル為メ嚴重ナル引締策ヲ取リ、一九三四年四月七日現在ヲ以テ貸出先ニ對シテ信用授與ノ限度ヲ設ケ、其以テ新ニ信用ヲ擴張スルコトヲ中止シ、同年秋右限度ヲ一割引上ケル儘此方策ハ尙今日及ビテ居ル、右制限ノ為メ一層ノ困難ヲ惹起シテ破産者續出シタカ、併シ止ムヲ得ヌ事ナリ。

労働時間ニ付テ言フ、平和條約ニ定ムル八時間労働ノ解釋一定セシテ、労働者工場へ出入時間ヲ以テ之ヲ算ヘカラス、炭坑夫ノ如キハ六時間乃至六時間半ニ實際トナリ、併シ産業ノ不振ヲ労働者ニ漸ク見リ、最近三週間至四時間現実に働カシメタカ、ロンドンバンクハ健全ニ金融制度ニ立歸ル途ヲ開キ、過渡的機關「ポンド」ガ、一九三四年十月「ロイヒスバンク」カ愈「ド」ニ安基ヲ改造セラレコト、ナラバ、新「ロイヒスバンク」ノ發行紙幣對シテ金準備割合ハ四割ヲ要スル、尤モ其内四分六分外國爲替手形ヲ所有スル許

二残り四分三ハワイヒスバンク自身又外國ノ發券銀行ノ金庫内ニ保有セラレ正金タルヲ
 要ス、而シテ他六割ハ為替手形又ハ小切手ヲ準備シテ發行スルコトガ出来ル定ムテアル、コト
 イヒス、ク「改造以來ヨリ」對内對外價值愈々安定スルニ至リ、併シ「ドリス」區安ホニ遂行
 ヲ期スルト出来スト信スル、獨逸ノ現狀ヲ以テシテハ如何ニシテ該安ホニ定ムク如ク支拂ヒカ出
 来ヤウ、近日受取リタ新聞ニ據ルハ佛蘭西ハ獨逸ノ賠償支拂義務ニ代テ「聯合
 國ノ土木事業ニ勞働スル義務ヲ獨逸ノ技師、勞働者ニ負ハセル考ガルトノコトハ
 ガン」ニ事カ可能テ「ロウカ」例ハ東京橫濱間運河開鑿事業ニ獨逸ノ技師
 職工ヲ無報酬ニ使役スルコトカ出来ルテ「ロウカ」ドリス安ホハ根本的解決安ホヲナクシテ
 一時的氣體ノ策ニ逼キヌト思フ。

今、日獨兩國間ニ双方ニ妥滿カレカラ早ク之ヲ取去テ兩國通商ノ回復ヲ圖リクシ、
 獨逸ヲ見レハ兩國間ノ通商條約ヲ締結スルコトカ必要ナル、條約カキテ為メ日本ハ
 米國ノ染料ヲ自由ニ輸入スルモ、獨逸ノ染料ヲ輸入セシメスレテ差別的取扱ヲシテ居テ
 獨逸ハ甚シキ不便ヲ感シテ居ル、日本ハ獨逸ノ技術ヲ歡迎シテ居ラレヤウナレトモ、獨

逸ノ第流、技師カ日本大會社ノ招キニ應ジテモ、格別ノ仕事ナク、毎日出勤シ新聞
 ヲ覽テ時ヲ過スマウナ者様デレカラ、三年ノ約束テ来テモ一年位ヲ歸リテ仕舞フ、日本
 ニ仕事アルハ獨逸ニ派シテ技師ハ悦ニヤツテ来ル、獨逸ノ技術者仲間カ外國ノ求メ應
 ゼ又秘密規約ヲ設ケテ居ルトノ噂サカアルソウデレカ、コレハ全ク無根デレトコト斷
 言スル云々。

計 八三四七

計 八三四七

大田五〇
 一八〇〇
 一六六
 三三五〇
 五三六
 五四九〇五
 報會費
 圖書費
 通信費
 雜費
 剩餘金

借入 八三〇円

四八六
五二五〇〇
三〇四八

貯金 係子
會費
前奉 贈金

借入 八三〇円

一八〇〇〇
三三三六〇
一六六

購書金
購書費
購書費
購書費
購書費

支入

支出

會信時告

大五十四年 五月廿日

小學教員ニテ書記ヲ兼務シ村會ノ如キ小學校會ヲ利用シテ處理シ、リ而
テ彼等ニ聞クニ尙大ニ行政整理ノ餘地ナト稱シ、リ要スニ我邦於テ人口
過剩等ニ因テ結果ナラシメ組織其他ニ就キ簡易シテ然カモ内容充實實
實ニ發達ヲナスヘク大ニ研究ヲ要スモノアリト思考ス (了)

○田川大吉郎氏 講話要綱

唯今歐米視察談リカガ極ニ就キ感カ處ハ我邦於テ官營ノ設備極大ニ
節約ヲ計ラシコトヲ希望ス又自分ノ知處ニヨリ米國シアルニ於テ同地在住
日本人兒童ノミヲ收容スル爲メ小學校ニ於テ其建築、設備及教育ノ
方法等完備シテ其實ニ日本内地以上ニ發達シ今日迄ニ既ニ六千人以上ノ
人兒童ヲ教育シタリト云フ而シテ之カ衝ニ當ルモノハ米國婦人ナルコトヲ實見
シタルコトアリ

營繕管財局ニ於テ國有財産ヲ統一整理セラル、コトハ誠ニ機宜ニ適スモノナ

ルが従来國有財産ノ不用ナルモノ等ヲ都市ニ拂下ケラル、場合其交渉容易
 ナラス拂下價格ニ於テ種々問題トシ場合多ク國有財産ニシテ必要アラハ無
 價ヲ以テ之ヲ都市ニ拂下ケ得ルノ規定アルニ拘ラズ之カ實行ハ皆無ク有様ナ
 ナリ又水利權問題等ノ如キニ於テ國ハ市ト私營會社トヲ同等視シアルヤノ
 觀アリ國ノ經營、市ノ經營ニ於テ其間格段ノ差異アルベカラサルモノナルモ此
 ノ如ク國ト市トノ間ニ甚シキ懸隔ヲナスコトハ都市經營ノ上ニ於テ重大ナル關係
 アルコトニテ將來必要ニ應ジテハ國有財産ノ無償拂下ヲ實行セシ、様當
 局ノ調査研究ヲ希望ス (了)
 右三氏ノ談話ヲ終リテ一同別室ニ移リ種々歎談ヲ交換シ午後九時三分
 散會ス

經濟政究會報告

大正十四年七月八日午後六時ヨリ九時内銀行俱樂部於本會創立
 滿三年記念晚餐會ヲ開キ創立以來本會ノ為メニ各種講演
 セラレタル諸氏ヲ招待ス

招待者中來會セラレタル諸氏左ノ如シ (イ只順)

- | | | | |
|--------------------------|--------|-------|--------|
| 濱口雄幸氏 | 別府丑太郎氏 | 富井宗雄氏 | 太田嘉嘉郎氏 |
| 田川大吉郎氏 | 田中廣太郎氏 | 中川貞治氏 | 中島彌團次氏 |
| 山口鏡之助氏 | 山崎覺次郎氏 | 寺島成信氏 | 田 昌氏 |
| 斯波忠三郎氏 | 瀨川秀雄氏 | | |
| 招待者中事故ノ為メ來會セラレザリタル諸氏左ノ如シ | | | |
| 泉 至剛氏 | 田邊隆二氏 | 那須 皓氏 | 見玉謙次氏 |
| 天國直嘉氏 | 澤柳政太郎氏 | 水野廣德氏 | 澁澤元治氏 |
| 會員出席者左ノ如シ | | | |

西尾 豐氏 西野惠之助氏 大口喜六氏 田中鐵三郎氏
 田中 次郎氏 名取和作氏 植村俊平氏 山口堅吉氏
 山口喜三郎氏 有賀長文氏 明石照男氏 水町袈裟六氏
 志村源太郎氏 志立鐵次郎氏

午後七時五分食堂ヲ開キ食後委員志立鐵次郎氏本會ヲ代表シテ來賓ノ來會ヲ謝シ本會創立以來ノ經過概要ト漸ク社會ニ存在ヲ認メラルニ至リタル現状ヲ述ベ來賓各位ノ後援ヲ謝シ尙將來ニ於テ先指導後援ヲ求メ來賓一同ノ健康ヲ祝福シテ乾杯ス之對シ山口銳之助氏來賓ヲ代表シテ謝意ヲ述ヘラル志立委員ヲ來賓ニ三氏ノ短時間ニ高見ヲ拜聽シタルヲ先ツ太田嘉太郎氏ヲ指名ス

○太田嘉太郎氏(大藏省營繕管財局理事) 講話要綱
 營繕管財局(大正五年五月制定)官制ノ概要ニ就テ官制調查ノ沿革ヲ現制即チ營繕管財局ハ大藏大臣管理ニ屬シ議院ノ建築其他

一般會計支辨ニ屬ス建築物營繕ニ關ス事務、國有財産ニ關スル總轄事務、雜種財産ノ管理處分ニ關ス事務及國有財産ノ整理ニ關ス事務ヲ掌リ其内營繕ニ關ス事務ハ大藏省所管ノ建築物及東京府又ハ神奈川県ニ於テ營繕ヲ施行ス各省所管ノ建築物係ルモノヲ除ク外大藏大臣建造物ノ所管大臣ト協議ニテ定メタルモノニ限ルモノニテ之ヲ爲メ大正十四年度ニ於テ壹千叁百萬圓ノ豫算ヲ有シ尙大正十五年度以降繼續事業トシテ壹億五百萬圓ノ豫算ヲ計上ス

右ノ外各省備品等ノ購入ニ就テ共同購買法ヲ實施スル目的ヲ以テ目下銳意研究中ニ屬ス此等ノ業務ニ就テハ大ニ各位ノ研究ト共ニ指導セラレシムトヲ希望ス (了)

次ニ志立委員ヲ最近歐米各地ヲ巡視歸朝セラレシ田中廣太郎氏ヲ指名ス

○田中廣太郎氏(內務省地方局財務課長) 講話要綱
 地方稅整理問題ニ就テハ經濟研究會ニ於テモ既ニ第回報告ニ依テ其決

議ヲ發表セラリ。自分ニ於テモ大ニ整理要ル意見ヲ有スルモ、目下税制整理調査ノ員ニ加リ、凡ソナルガ歐米地方税制ト我邦ノ税制トヲ比較スルニ米國ニ於テ營業免許税、財産税、自動車税等ヲ有シ、英國ニ於テ不動産税、貸賃價格ニ依ル家屋税(國税トシテ家屋有税ヲ有ス外)等ヲ有シ、佛國ニ於テ附加税制ニ據リ、獨國ニ於テハ馬車ノ變動甚ク其變動ニ伴フテ税制モ亦變動シ、確定シ先モノナキ有様ニシテ、獨リ我邦ノ税ノ必ズモ思税制ト斷難キモ、アリ地租及營業税、地方香讓ニ就キテモ直ニ之ニ賛同シ能ハルモノナリ。或ハ市町村税トセシテ地方税トシテ可ナラカトモ思考ス要ス。我邦ノ税制ハ大ニ改革整理ヲ要スルモノハ、疑キ處ナモ唯ニ歐米ニ倣フ。我邦獨特ノ整理ヲ實行スベキモノナラスヤト思考ス。又義務教育費ニ就テ我邦ノ現状ハ大ニ經濟的ニ改革スルノ要アルヲ認メ、歐米諸國ノ農村學校ニ就テ見ルニ、何レモ二部教授ヲ採用シ、又運動場、應接室、教員控室等、如キ特別ノ設備ナク、頗ル簡易ニ實行スルアリ。又役場ニ就テ見ルニ、至極簡易ニシテ、借家、借間ニテ所辦スルハ

貴會が現内閣ニ對シ、財政整理ノ續行及緊縮ノ徹底的實行ヲ要望セラレ、猶斧鉞ヲ加フルノ餘地多クナリトセラル、ハ此方面ノ知識ニ乏キ吾人トシテ、ハ深ク批判容喙スルノ資格ナキ、其精神ニ對シテハ、双手ヲ擧テ全然賛同スル者ナリ。

近來新聞紙上又ハ有識者、政黨者間、頻ニ積極トカ消極トカニテ論議セラレ、居ル様デアルガ、吾人ハ兩極共ニ相反スル者デナク、結局歸一スベキモノト信スル、換言スルニ、其時期及事物ニ對シテ、適應シテ錯ラヌ所ニ兩極ノ妙味ハ存スルモノデアル、即チ消極ナラサルハカラル時期及事物ニ對シテ積極ヲ主張スルハ、ソレハ放漫デアル、深謀遠慮ヲ缺ケル錯誤デアル、之ニ反シテ積極ナラサルハ、カラル時期及事物ニ對シテ消極方針ヲ採ルハ、畏縮デアリ、怯懦デアル、極言スルニ、無能デアル、慎重トカ、熟慮トカニ、隠ルヲ許サヌ、畢竟國家百年ノ大計ヲ決スル勇斷ナキモノデアル、現内閣ハ昨年組閣以來、行詰マルル財政ノ整理ニ熱中シ、積年ノ情

弊ヲ打破シ無用ヲ削除シ不急ヲ延期シ、政費ノ截断ヲ企圖シ、即チ消極ナラサルハカナル事柄ト時期トニ對シ、適應セル消極的ノ政策ヲ採ラル、ハ吾人ノ敬服スル處ナリ、

然レ現内閣ハ一面如此政策ノ緊縮ヲ計ルト同時ニ、其表面ニハ生産産業對シテハ大ニ積極的態度ヲ採ラシメテハ吾人共ニ希望シテ已マ又次第ナリ、之レ吾人ガ兩極運用ノ妙ヲ提唱スル所以ナリ、俱ニ時ノ宜キニ順應セズバナラヌト爲メ所以ナリ、勿論吾人ハ總テノ産業ニ對シテ一槩ニ束縛ナラズモハナシ、其採擇方法ヲ慎重ニ考究スヘキ當面然ナリ、曩キ或内閣時代ニ朝野舉テ大失錯ヲ醜シタ如キヲ繰返シテナラヌコトハナラマナシ、

現内閣ノ産業政策ニ對シハ吾人未タ多ク知處カナイカラ批評ハ業又カ産業政策ニ亦政費同様緊縮一天張リノ方針ヲ採ラルトハ信セ又、想フニ必スヤ事柄ト依テ區別スル吾人ノ所見上致スヘキヲ信ズルナリ、

最近貿易表ヲ一閱スルニ多大ノ輸入超過ヲ示シテ居ル、是然トシ時節到來ヲ待ツベキナリ、此ノ事柄ニ對シハ奮闘努力ヲ發展ヲ企圖セバハナラヌ時代ト信ズル、十三年ノ大輸入ハ震災ニ基ク臨時應急物資ノ過大ナリシヲ認メテハナラヌ、如此綿執力ナルヲ以テ内外存置正復ハ著シキ減額ヲ求メ、倉替相場亦非常ニ我ニ不利ヲ招来シテ居ル、今輸入品中ノ重要ナルモノニシテ我ニ自給ノ可能ナルベシト信ズルモノヲ舉グルニ

(但シ綿花ハ不可能ナラン)

- 第一 食料品
- 第二 肥料
- 第三 綿花
- 第四 鐵及銅

第一ノ食料品中國民ノ常用食物米ヲ毎年不足シテ居ル、之ハ朝鮮ヲ利用シテ大ニ緩和ヲ計ルヘキナリト信ズル、吾人ハ僅カナカラ試作モヤッテ居ルノ增收ノ見込ハ確カニアル、然レ同地ハ草食ニ試験場長ク

之本田農學博士、識見ニ待ツヘキ者多キヲ信スル、其臺灣モ亦大ニ獎勵
ノ必要ガト思フ、

糖業ハ現時有利ノ地ト巨クテ居ル、吾人ハ素人テハ凡ク、輸入價ノ巨大ナ
ルニ想到スルハ高擴張ノ餘地アリト信セラル、進テハ輸出ヲ是處ニ得ルニ達
スベシ、

第二肥料 輸入金額ハ一億四ヲ突破シテ居ル、之モ亦内鮮河川ヲ
利用シテ水力發電所ヲ新設シテ中空窒素肥料ノ採取ヲ計ルヘキ願ハ急
務デアラウ、專制家ノ奮起ヲ期望シテ已マスト同時ニ政府積極
的援助ヲ望ム、

第三棉花 朝鮮ニ於ケル試作ノ結果ハ良好ナルガ量ニ於テ大ナル
望難イ、先ツ輸入ニ仰シテ外ナラン、但シ南米ブラジルノ如キハ蓋
シ觀通ニ難キ問題デアラウ、又本年山縣大使ニ隨行シテ某氏說
ニ依リテ、佛領印度ノ領土大ニ地味ノ豊富田上ハ、綿花及米作最

モ適ヨリト、殊ニ勞働者ノ不足ハ我移民ヲ歡迎スルノ傾向アリト、
直ニ候ヲ措キ難キモ南米ト共ニ調査ノ價値アリト思フ、

第四鐵銅 之ハ我國トシテ原料ニ大缺陷ナル中々ニ經濟困
難ノ事業デアル、然モ國防上重大關係ヲ有スル物資デ、之ハ如何
ナル難關ヲ凌イテモ自給策ヲ樹テセバナラヌ、明治廿九年政府ハ情
市ニ製鐵所ヲ設立シテノモ蓋シ此大局ニ自覺シテ爲メテ、此製鐵所
ガ日露戰役及歐洲大戰ニ際シテ、如何ニ顯著ナ効績ヲ著セリハ叙述
スルモナイ、勿論華府會議ノ平和維持協定ハ各列強トモ、永久ニ其効
果ヲ持續セシメトシテ熱望セルニ相違ナキモ、由來「戰」ハ勢デアル、各國間ノ
物調ハ何時破裂セヌトモ限ラヌ、昨年我協調内閣ハ製鐵業審議
會ヲ設置シ、以テ帝國該業ノ根本的振興ト自給ノ大策ヲ確立スルニ企圖
シタ、之ハ無論當然ノ事デアル、經濟ノニ就テ云フニ鐵銅ニ昂輸入額
ハ一億三千萬乃至五千萬円ト下レテ居ル、加之機械ノ輸入額ガ又更ニ億円

以上三ツテ居、尤モ極テ精巧微妙ナル機械製作ハ相當ノ年所ヲ経ルニ
ラカシハ不可能トシテモ、鐵鋼ノ自給ニ從テ機械ノ製作モ之ニ伴ヒ進歩スル
テ、漸次研究ヲ進メ一方ハ職工ノ養成ヲモ兼テ以テ他年ノ悔ヲ残サズ様
國策ヲ樹立スベキモノナル、

以上ハ顯著ナル輸入物貨ノ防止就テ思見ノ一端ヲ披瀝シタシ過キカ、如上ノ
事業ハ勿論資本家事業家ノ任務ナル、併シ政府ノ提撕ト相待タズバ
充分ノ發達ヲ遂ゲ、効果ヲ大ニシルコトハ不可能ナル、殊ニ製鐵原料獲
得ニ至リテハ國際的困難ニ觸レ、政府ヲ統一的輸入大計ヲ樹立スベキ必要カ
凡、到衣三向事業家個々ノ契約ヲ頼ミシルニ足ラヌ大問題ナル、
要之吾人ノ高唱セント欲スル巨ハ消極ニ積極モ時ノ宜キ適應スベキモノナ
我ニテラス、政策ノ緊縮節約ハ勿論不急ノ公事編延ハ大ニ可ナリ、之ヲ無差別
ニ産業政策ニ適用セトスアラハ、夫ハ間違テ國策ニ忠カモシ非トスルナラ、若
シ夫レ事業ノ詳細ナル利害得失輕重難易大小前後杯ノ具体安否ハ之ヲ他借讓
ル事トスル、
大正十四年八月三十日
安川敏一郎

大正十四年九月十七日經濟及社會委員會會議案
志立稿

國際貸借ノ根本的改善策ハ金解禁ヲ断行シテ物價ヲ低下
スルノ一アルノミヲ行フノ勇氣ナクシテ百ノ改善案ヲ

講スルモ永遠ニ益ナシ
只走レ金解禁ハ輸出ヲ幾分ニテモ増加シ為換ヲ少シニテ
モ有利ニ導キタル時期ニ実行シ易ケレハ今茲ニ研究セシ
トスルハ近キ將來ニ於テ金解禁ノ実行ヲ前提トシ、其準備
行為トシテ輸出増進策ヲ工夫セントスルニアルノミ、若シ
コレニ安ニシテ根本策ノ断行ヲ怠ルコトアラハ是レ國家

ノ長計ヲ誤ルモノナリ、
輸出増進ノ最大障害ハ物價高ナレバ其引下テ目的トシテ

速ニ左ノ諸点ヲ改良シ以テ物價高ノ弊害ヲ緩和スヘシ
一、中央地方政費猶膨大ニ失シ國民經濟力ニ伴ハサルヲ
以テ更ニ大ニ之ヲ緊縮シテ負担ノ軽減ヲ策スルコト
二、關稅中生活生産ノ障害タルモノ少ナカラサレハ之ヲ

- 一 撤廢輕減スルコト
- 二 塩ノ專賣ハ生活必需品並ニ工業必需品タル塩ノ價ヲ法外ニ高クシ日常生活並ニ工業發達ニ有害ナレハ之ヲ廢スルコト
- 三 鐵道ノ運賃高キハ亦生産ニ有害ナレハ之ヲ低減スルコト
- 四 原始的貨物運搬法ニ改良ヲ施スコト
- 五 新式機械器具ノ合理的應用未タ行ハレサルコト亦物價高ノ一因ナレハ欧米ノ優良ナル技師ヲ雇入レテ是等ノ應用訓練ニ資スルコト
- 六 金融機關ニ組織ナキハ我一大缺陷ナレハ之ヲ整備スルコト
- 七 銀行ノ不良貸附ヲ徹底的ニ整理シテ資金梗塞ノ病源ヲ醫スルコト
- 八 商業手形ノ流通少キハ金融界ノ一大缺點ニシテ之ヲ助長獎勵ニ付日本銀行猶ホ努力ノ餘地アルコト

十 操業短縮、製産制限、賣價協約等國民生活ニ有害ナル同業協定ヲ嚴重ニ取締ルコト

(参照)

夕オジ一グ氏經濟原理第一卷第四六六頁譯

紙幣カラ金貨本位ニ立復ラント用意シテ居ル國ハ其立復ヘル變動ノ際偶々貨物ノ輸出力多ク爲操カ安クナツタ時デアレハ金貨支拂開始ガヨリ容易ク行ハレルコトヲ發見スル是レニ付テモ他ノ多クノ事ト同シク多教ノ又ハ一時の勢力ト永久の勢力トノ結果ヲ混淆シテ居ル。低落ニシタ紙幣ノ國ノ立法者、經濟記者共ハ金貨拂開始カ企テラレル前ニ外國貿易ノ有利ナル状態カ先ツ達成セラレハナラヌト屢賢サウニ陳ヘルガ彼等ハ此有利ナル貿易状態ニ對スル輸出ノ超過一ソレ自体カ低下シタ物價ノ結果デアルコトヲ見忘レテ居ル。又彼等ハ金貨支拂開始ニ由リ彼等ノ國ノ物價カ金貨ヲ基準トシテ低下シタ上有利ナル

貿易状態ヲ維持スル唯一ノ方法ハ亦金貨支拂開始テ
アルコトヲ見忘レテ居ル。而シテ此物價低下ハ紙幣十
ル妖魔ヲ勇敢ニ駆逐スルコトニ由テノミ達成シ得ル
モノデアル。

國際貸借改善策

大正十四年十月十四日 委員會公案

國際貸借改善ヲ唱フル者三種凡ト思フ、其一ハ金ヲ重要視スル重商
主義者ノ亞流、其二ハ專ラ金貨拂復歸ノ準備トシテ金流出ノ減少ヲ
期待スル者、其三ハ國富ノ増殖社會ノ幸福ヲ主眼トシテ根本論者テ
アル、其一ノ主張ハ取ルニ足ラサル迷想ナシトモ、今日猶此謬見ヲ抱テ金
流出ヲ怖レ、道理ヲ辨エテ保護論ヲ唱ヘル者少カラサハ之ヲ説破シテ
世論ヲ指導スルノ必要カク、其二ハ目的トシテ所不可ナク本會ノ主張セ
ン所モ其一部ハ此趣旨ニ外ナラサレトモ、大藏省邊ノ意見トシテ世傳
ヘラレル此種ノ改善案キハ多ク區々見ルニ策ニシテ永遠ニ益ル所サケレ
ハ本會ハ國家ノ大局ニ即シテ先金解禁ノ準備方策ニ加フルニ第三ノ根本
論ニ出發シタル合理且實際的方策ヲ考案シタイト思フ。

國際貸借改善策ノ目標ハ我輸出品ノ價格ヲ國際市場ニ於テ安ラセリト、
我資本勞働ノ能率ヲ高メテ生産ヲ多クスルニツテアル、即チ消極的ノ積極
的ノ二ノ目標ガアリ、手段モ亦此ニツカレル。而シテ我輸出品ノ價格カ國際
市場ニ於テ現在安イカ高イカハ我國ノ物價指數ト主テ外國ノ物價指數トヲ
正確ニ比較スル要ガアル。日本銀行ノ物價指數ハ所謂單式算術平均數

米國、物價指數ハ複式幾何平均ナルカス兩國間物價ヲ比較スルハ先ツ指數算定法ヲ一定スルニ要スル。併シ此ノ事ハ容易ナキ事ナク、且現今發表セラルル指數ヲ以テ大体ノ傾向ヲ推定スルハ大ナル過ナイト信スルカス、先ツ之ヲ據テ論ズルハ外ナカラウ。

第二目標タル資本労働能率増進ニ就テ言フニ要スル。日本ニ於テハ労働賃金ノ高キト製造品價格ノ高キト原因ナリトシテ労働賃金ヲ低下セントシテ傾キガ産業界ニ強イヤナルガ、コトハ考テ要スル點ナルト思フ。高キ労働賃金ト高キ物價ト相伴ナド云フコトハ根據ナキ議論ナル。英米ニテハ労働賃金我國ヨリモ遙ニ高キトモ、物價ハ我國ヨリモ低キ。是ハ何故ナク労働能率力我ヨリモ遙ニ多イカラデハ。我國ノ労働賃金ハ其能率ニ對シテ比較的高イカモ知ラズガ、併シ労働賃金ヲ安クスルハ能率ヲ必ス降ルニ相違ナイ。今日於テ考テ又キハ労働賃金ヲ安クスル事ヲモ、寧ろ如何ニシテ労働ヲ有效ニスヘキカト考テ思フ。

一、金ノ輸出ヲ自由ニスルコト

金ノ輸出カ自由ニシテハ金カ流出シテ物價自ラ低下シ、賣ルニ便利トナルカラ輸出ヲ刺戟スル。之ト同時ニ米國ノ物價ハ次第ニ高上シテ買フニ便利トナルカラ輸入ヲ刺戟スル。

金ノ輸出カ自由トシテハ金ノ流出カ時大キケレハ大キイ程其停止ハ層確實ナル。金カ自由ニシテハ國際貸借ノ所謂不利ナル状態ニ憂フルニ足ラヌ。之ヲ憂ヘテ外國品ノ輸入ヲ防遏シタリ、輸出品ノ製造ヲ保護シタリシルハ愚ノ至リデハ。古來國際貸借ノ不利カ為メ滅亡シタル國ハモナイ。憂フヘキハ國際貸借ノ不均衡ヲ生ズルニ在リ。今日為換安ノ為メ輸出ニ便果就中労働能率ヲ高ルコトカ所要ナル。今日為換安ノ為メ輸出ニ便トナリ、從テ輸出額カ値ヘテ來テ居ルケレトモ、コトハ我労働ヲ外國ニ安賣リシテ居譯テ曰本人ハ之カ為メ次第ニ負至ニナリ、金ノ解禁ハ國家ニ永遠ノ策トシテ必要ナルカラ之ヲ實行ヲ促ス為メモ左ノ方法ヲ講シテ為換状態ヲ善クスルニ必要ナル。

二、關稅中生産生活ニ有害ナルモノヲ撤廢輕減スルコト

外國品ヲ成ル可ク買入ルコトハ即チ自國ノ資本労働能率ヲ高ル所以ナル。之ニ反シテ外國品ニ課稅シテ其輸入ヲ防クコトハ自國ノ資本労働ノ効果ヲ低ムル結果トナル。コト事ハ自由貿易論ヲ研究スル迄モナク、苟モ今業ハ為換貨幣等經濟學理ノ初歩ヲ知ルモノ、諒釋シ易イコトナル。産業獎勵ノ為メ關稅ヲ課スルハ資本労働ノ他ノ産業ニ赴クヲ妨ケルカス、ソレトシテ二者ノ効果ヲ低減スル。故ニ幼稚

産業保護ノ為メニ関税ヲ課スルハ必要止ム得サル場合ノ外高スヘキコトナシ。関
税ハニツノ理由ヲ他ノ産業發達ヲ阻害シ居ル。其ハ之カ高ク原料ヲ高クシテ
生産費ヲ高クシテ居ル。其ハ之カ高ク一般輸出品ノ外國市場ヲ狭メテ輸出
産業ノ發達ヲ害スル。米國ノ産業力保護政策ノ為メ盛テ思フハ謀リテ米
國カ関税ヲ撤廢スルハ其ノ産業ハ一層發達スルコト信スヘキ確カ理由カアル。且保護
政策ノ最大ノ害ハ一度課セラレタル関税ハ其必要ナキ後ニ至リテモ之ヲ撤廢スル
難ク健全ナル産業ヲ發達國民ノ生活並ニ精神ニ有害ナル結果ヲ及ボコトナル。
減廢スヘキ主ナル関税左ノ如シ。

砂糖、塩、生糸、綿糸、推磨油、鉄重板、牛肉、粉乳、鶏卵、

三、塩ノ專賣ヲ廢止スルコト

塩專賣カ生活上曹達工業上甚ク有害ナルハ明ナレハ之ヲ廢スベシ。

四、中央地方政費ヲ徹底的に緊縮シテ負擔ヲ輕減スルコト

山本内閣當時緊縮ニ関スル訓令並現由閣方昨年發布シタルニ至リ緊縮
訓令ノ趣旨ニ基キ之カ實行ヲ中央地方ノ官衙ニ嚴命スベシ、之ト共地方歲
入ノ放漫ヲ取締リ、入ルヲ量リテ出ルヲ制スル策ヲ取ルベシ。

五、官業ヲ民業ニ移テ方針ヲ採ルコト

六、鉄道ノ能率ヲ増進シ且運賃ヲ低減スルコト

運送機關ノ改良カ貿易状態改善ニ至大ノ關係有ルコトハ米國カ南北戰争後
不換紙幣制度ヲ金ノ自由制度ニ復歸シタル當時事實蹟ニ徴シテモ明白ナル。
此點於テ我邦ニハ考慮スヘキ餘地カ多クイト思フ。最近鉄道者々自動聯結
機ヲ備附シタル如キハ世上多ク注意セラレモ著キ大改良ナル、斯ル善事ハ大ニ之ヲ
稱美シテ尚改良ヲ囑期スヘキ譯ナル。

七、運送方法ヲ改良スルコト

八、新式機械器具ノ合理的應用訓練ヲ普及セシメ勞働能率ヲ

高マルコト、工業運輸業ハ勿論農業ニモ此餘地多ク大ニ之ヲ

九、金融機關ノ組織ヲ樹テルコト

十、銀行ノ固定貸付整理スルコト

十一、預金部特殊銀行ノ整理ヲ徹底的ニ實行スルコト

十二、信用取引ノ發達ニ努ムルコト

信用發達ノ為メ日本銀行並普通銀行ノ官業振リヲ改善スルノ要サカラス。

十三、外貨輸入ヲ妨ケサルコト

十四、揮霍短縮、製産制限、賣價協約等消費者ノ不利益ナル同業協定

之故取締ルヲト
去自由主義教育ヲ實行スルヲト

經濟攻究會

甲寅年

國策貸借改善策

大正十一年十一月二十日

我國際貸借ヲ改善スルニ以テ國富ヲ増殖スルニハキ根本的方策ト
シテ本會ハ(甲)國內ノ消費ヲ節約スルコト(乙)産業振興ノ爲
ニ物價及金利ノ低落ト生産能率ノ増進トヲ謀ルコト(丙)田
價ヲ回復シテ國際取引上ノ損失ヲ緩和スルコトヲ以テ
之ヲ扶植スル爲ニ努力シ民間先覺者モ亦適宜ノ方法ヲ講
スルコト緊要ナリ
消費ノ節約ヲ以テ消極的施設ト看做スルモ自然物價ヲ低
下シ又節約ニ因テ生シタル餘裕ヲ生産的ニ利用シ得ル
ノ効果アルヲ以テ是點ヨリ觀レハ積極的方策ト稱スル

國策債借改善策

大正十一年三月二十日

我國際債借ヲ改善シ以テ國富ヲ増殖スヘキ根本的方策トシテ本會ハ(甲)國內ノ消費ヲ節約スルコト(乙)產業振興ノ爲ニ物價及金利ノ低落ト生産能率ノ増進トヲ謀ルコト(丙)田價ヲ回復シテ國隆取引上ノ損失ヲ緩和スルコトヲ以テ(丁)下ノ急務ト認メ此ノ目標ニ到達スル爲ニ以下列記ノ諸項ヲ實行スルコトヲ決議ス

(一)中央及地方政費ヲ徹底的ニ緊縮シテ國民ノ負擔ヲ輕減スルコト

(二)一般國民ニ對シ節約ヲ獎勵スルコト

(三)緊縮ニシテ復々繁縮ノ必要ハ既ニ前回報告ニ於テ之ヲ悉セルヲ以テ復々繁縮セズ本會ノ期待スルモノハ徹底的緊縮ニシテ國民ノ賦課ヲ輕減シ國債償却ニ充當ニ得ル程度ニ達スルニアラサレハ不可ナルコトヲ茲ニ繰返シ聲明スルモノナリ

激ナリ中央政費ハ全國民ノ注視ノ下ニ在ルモ地方費ハ一地方ニ局限セラレ、ヲ以テ不知不識ノ裡ニ増加セラレ、以テ之ヲ緊縮スルニアラサレハ徹底的ニ國費ヲ節約スルノ効果ナシ

然レモ國費ノ削減ヲ希フト同時ニ一般國民ニ對シテモ亦一大覺悟ヲ要求セサルヘカラス、歐洲戰時中增長シタ浮華浪費ノ風習ハ猶ホ現存シ、財界ノ田復ニ至大ノ故障ヲ爲セリ、殊ニ近來貿易ノ好轉、農村ノ豐潤ヲ見テ早クモ民心弛緩ノ傾向アルハ、最モ警戒ヲ要ス、政府ハ節約獎勵ノ爲ニ自ラ模範ヲ每レ教育家ハ學生皆ニ勤儉ノ美風ヲ扶植スル爲ニ努力シ、民間先覺者モ亦適宜ノ方法ヲ講スルコト緊要ナリ

消費ノ節約ヲ以テ消極的施設ト看做スモ、自然物價ヲ低下シ、又節約ニ因テ生産シタル餘裕ヲ生産的ニ利用シ得ルノ効果アルヲ以テ是點ヨリ觀レハ積極的方策ト稱スル

(一) 中央及地方官費の増減...
(二) 地方官費の増減...
(三) 地方官費の増減...
(四) 地方官費の増減...
(五) 地方官費の増減...
(六) 地方官費の増減...
(七) 地方官費の増減...
(八) 地方官費の増減...
(九) 地方官費の増減...
(十) 地方官費の増減...

ヲ得ハレ

(三) 関税中生活生産ニ有害ナルモノヲ撤廢輕減スルコト

(四) 塩ノ專賣ヲ廢止スルコト

(理由要領) 濫リニ関税ヲ高率ニ置クハ生産費ヲ増大シテ産業ノ發達ヲ沮害シ一般國民ノ生活並ニ精神ニ有害ナリ

多教者ノ犠牲ノ下ニ或ル特種ノ事業ヲ保護スルハ結局國家ノ損失ニ歸スルコトヲ思ハサルヘカラス

塩ノ專賣カ工業ノ發達及一般生活ニ有害ナルコトハ論ナキ所ニシテ特ニ撤廢ノ要アリ

(五) 官業ヲ民業ニ移スノ方針ヲ取ルコト

(理由要領) 政府ニ於テ企業ヲ經營スルハ損益ヲ度外ニ置クヲ以テ經濟上常ニ不利ナルノミナラス各種ノ賦課ヲ受ケル民間ノ同一事業ヲ壓迫スルコト大ナリ之ヲ整理シテ民業ニ移スハ産業ヲ有利ニ導クト同時ニ純益ハ民間ニ放散セラレ資金ヲ増殖スヘシ

(六) 鉄道ノ能率ヲ増進シ且運賃ヲ低減スルコト

(七) 海陸聯絡ヲ改善シ運河ノ設備ヲ完成スルコト

(八) 運送方法ヲ改良スルコト

(理由要領) 運送方法ノ改良ハ物價ヲ低落セシメ貿易状態ノ改善ニ至大ノ關係ヲ有ス我國有鉄道ハ多額ノ費用ヲ投下シタルニ拘ラス經濟上ノ利害ヲ考慮スルコトニ関シテハ猶ホ遺憾ノ點頗ル多シ宜シク改善ヲ加ヘ運賃ヲ低下スルコトヲ謀ルヘシ

海陸聯絡ニ関シ官民ノ注意到ラサルノ憾アリ殊ニ運河ヲ利用スルコトヲ疎外セルハ運送ノ円滑ヲ缺キ運賃ノ低下セサル一原因ナリ

又ハ運送ノ現狀ハ諸種ノ事情ノ爲ニ頗ル不完全ニシテ多教商品ノ價格ニハ高キ運賃カ包含サレ又其ノ運賃ノ大部分ハ小運送費ニ因テ占メラル徒テ之カ改善ハ物價ヲ低下スル為ニ頗ル有効ナルヘシ

(九) 操業短縮製産制限賣價協約等消費者ノ不利益タル同業協定ヲ取締ルコト

業協定ヲ取締ルコト

業協定ヲ取締ルコト

業協定ヲ取締ルコト

十、大...
 十一、...
 十二、...
 十三、...
 十四、...
 十五、...
 十六、...
 十七、...
 十八、...
 十九、...
 二十、...

(理由要領) 同業組合ハ如何ニシテ製産費ヲ低下スヘキカヲ
 研究シ國民ノ利益ヲ圖リテソコソ意義アルモノナルニ現
 在ハ全然反對ノ目的ヲ有シ一般國民ヲ犠牲トシテ少數
 者ノ利益ヲ謀リ其ノ結果物價ノ低下ヲ妨ケ經濟界ノ發
 達ヲ抑止スルモノナリ嚴ニ取締ルコトヲ要ス
 (十) 金融ヲ低下シ信用取引ノ發達ヲ図ル為ニ左記ノ方針
 ヲ取ルコト

- a. 金融機關ノ組織ヲ確立スルコト
- b. 銀行ノ固定債ヲ整理スルコト
- c. 預金部及特種銀行ノ整理ヲ徹底的ニ實行スルコト
- d. 日本銀行及普通銀行ノ營業振ヲ改善スルコト
- e. 民間ノ外資輸入ニ干渉セサルコト

(理由要領) 我産業ノ發達カ滯滞セル一大原因ハ金利高キニ
 過クルニ在リ此ノ如キ高利ニテハ製産上外國ト競争ス
 ルコト至難ナリ又信用取引發達セズ金融業者カ取引上
 常ニ疑惑ノ念ヲ抱クコトハ金融ノ田滑ヲ妨タル原因ナ
 リ是等弱点ヲ除去シ金利ノ低下ヲ謀ルノ必要アリ

又民間事業會社カ低利ノ外資ヲ輸入シ之ヲ有利ニ使用
 スルコトハ金利ノ降下ヲ促カスモノニシテカノ外債ヲ
 起シテ不生産的ニ投下スルモノト趣ヲ異ニス政府カ其
 ノ威力ヲ以テ之ヲ防壁スヘキ理由アルヲ見ス
 (十) 生産能率ヲ改善スル為ニ左ノ方針ヲ取ルコト
 a. 勞資關係ノ円満ヲ謀ルコト
 b. 工業組織ノ上ニ根本的改革ヲ加ヘ勞力利用ニ心ヲ注
 イコト

(理由要領) 資本家ト労働者トカ利害相及スルノ立場ニ在ル
 ノ親アルハ我産業界ノ一大缺陷ナリ勞働賃金ハ寧ろ口之
 ヲ引上ケケ同時ニ生産能率ヲ増進シテ物價ノ低廉ヲ謀リ
 勞資融和シテ利益ヲ分配スルコト産業上頗ル有利ナリ
 次ニ我國ハ天惠ニ乏シク資本亦潤澤ナラサルヲ以テ勞

Handwritten notes on the right page, including the title '乙案' and '貿易増進策'.

乙案

貿易増進策

大正十四年十一月二十日

本策ハ甲案ト異名同策ナルモ甲案ハ研究ノ範圍狭小ニ失スルノ感アリ且其名稱重商主義者ノ主張ト混同セラ

第一項 緒言要旨

天惠乏ク人口稠密ナル我國ニハ外國貿易ノ發展絶對必要ナリ然ルニ其現状甚タ振ハスレテ一年總額人口一人當リ金額歐洲ノ國ノ六七分ノ一ニシテ當ラズ而モ其内容ニ至リテハ殊ニ食料ニシテ彼等ニ對シテ著キ遜色アリ今之カ根本策ヲ樹テ確實ナル基礎ノ下ニ之カ増進ヲ圖ルノ要切

ヲ保護シテ資本労働ヲ活用スルニトハ淫ク戒メサルヘカラス且已ニ貿易ヲ以テ民福増進ノ基トセントスル以上ハ産業ヲ成ルヘク國際化シテ世界共通ノ商品ヲ作製スルノ工夫肝要ナリ徒テ我國民生活ヲ漸次國際化スルニト亦當然ノ歸結ナリ本會ハ是等ノ見地ヨリ茲ニ貿易増進策ヲ樹テ大方ノ示教ヲ乞ハント欲ス

第二項 生産費低廉策

(一) 原料並原料用製品ノ關稅撤廢
工業原料ノ大部分ヲ輸入スルノ要アル我國ニ於テ之ニ關稅ヲ課スルハ最モ策ノ拙ナル者ナリ而シテ工業既ニ加工産業ノ道程ニ進ミタル今日ニ於テハ單純ナル原料ノミナラス原料用製品ノ關稅ヲモ撤廢シテ力ヲ精製工業ノ發達ニ注クコト所要ナリ撤廢スヘキ關稅品目左ノ如シ

麻織絲、毛織絲、綿織絲、生絲、柞蠶、銅、革類、鐵等
我銅坑ハ既ニ收支償ハサル地層ニ近ツキ之ヲ保護セン

第三節 經濟之發展
一、其目的在使國民生活之水準提高
二、其目的在使國民生活之水準提高
三、其目的在使國民生活之水準提高
四、其目的在使國民生活之水準提高
五、其目的在使國民生活之水準提高

(三) 預金部特種銀行ノ徹底的整理

政府ハ預金部並ニ特種銀行ヲ或ル程度ニ改良セルモ甚
ク不徹底ニシテ斯ノ如キハ後患ヲ貽スモノナリ預金部
ハ本會ノ己ニ主張セル如ク獨立ノ機關ヲラシメテ特種銀
行ノ不良ナルモノハ之ヲ改造シテ福根ヲ絶ワヘシ
四) 信用取引ノ獎勵
高形手形ノ流通漸次縮少ノ傾キアリ日本銀行中心トナ
リテ之カ榮華ヲ工支スヘシ

(五) 產業資金ノ輸入

民間事業會社カ低利ノ外資ヲ輸入シテ有利ニ之ヲ使用
スルコトハ金利ノ降下ヲ促ス所以ナレハ政府ハ之ヲ抑
制ス可ラス

第五項 生產經營ノ改善

(一) 生產組織

主タル產業國ハ各各自ノ長所ヲ有スレトモ大量生產ト
之ニ伴フ生產ノ組織ノ確立トハ各國共通ノ產業方針ナ

リ然ルニ我國ノ產業界ニハ殆ト何等ノ組織ナク偶々コ
レアル者ハ消費者ヲ苦ムル賣價固定ノ如キモノニ過キ
又產業ヲ振興シ國際貿易ニ雄飛セントスルニハ其基礎
タル生產ノ組織ヲ作成シ共力シテ事業ノ經營ニ當ルコ
ト最モ必要ナリ組織ニ種類多ク今一々之ヲ指摘シ難キ
モ大体横式組織ヨリモ縱式組織ヲ優レリトス即チ同業
ノ聯合ヨリモ一種ノ產業ニ必要ナル各種業態ノ聯合組
織ヲ優レリトス例ヘハ絹織物業者カ其原料タル生絲製
造業者ト利害ヲ共ニスルハ絹織物業者カ其原料タル生絲製
共同經營スルキ事ナリ產業界ノ注意スヘキ一要件ハ
組織的經營ナリ

(二) 科學的經營

次ニ實行スヘキ事ハ科學的經營ナリ雇傭者ノ責任ヲ限
定シテ其精神ヲ集中シ之ヲ以テ全般ノ能率ヲ高メ勞力
ヲ節約スルコトナリ改末ノ大工場ニハ計畫係ヲ置キテ
常ニ科學的經營ニ力ヲ勞働ノ能率増進ヲ怠ラズ貸金率

合理的決定ニ由リ始メテ之ヲ實行スヘシ
販賣法ノ改善
生産者ノ活動ハ製造事業ニ限ラレス製品ノ販賣即市場
開拓ニモ及ボサル、コト産業界ノ近状ナリ生産者ト販
賣者トノ利害ハ同一ニシテ利害及セサルヲ念トセサル
可ラス生産販賣ノ分業近時著ク減少シ来レルコトハ注
目スヘキ現象ナリ且買手ハ次第ニ受身トナリ賣手活動
的トナル傾向モ亦注意スヘキ現象ナリ我生産業者ハ海
外ニ向テ製品廣告ニ努ムルヲ要ス

第六項 實業教育ノ振興
産業振興ノ基礎ハ實業教育ノ作興ニ在リ言フ迄モナク教
育ノ本旨ハ特殊ノ能力ヲ啓発スルニ在リ然ルニ我國ノ教
育ハ注入的ニシテ教育ノ本旨ハ全ク没却セラレ兒童ノ能
力ヲ壓抑シ其發育ヲ妨クルノミナリ獨ニ産業ノ興リタル
最大因ハ教育就中實業教育ノ作興ニ存シ特殊ノ能力ヲ有
スル技術者全國ニ一階級ヲ爲シ産業ノ中心タリ教育ノ本

第七項 労働組合ノ認定
労働組合ノ成立ハ我産業ヲ發達セシムル一要件ナリ今之
ヲ詳説スルノ餘裕ナキヲ以テ簡單ニ之ヲ陳ヘシニ我産業
界ニハ労働者ヲ成ルヘク安ク且成ルヘク長ク使用スルヲ
利益ナリト考フル者猶多教ナルモ世界ノ大勢ヨリ見ルモ
我労働社会ノ状勢ヨリ見ルモ此ノ労働採取觀念ハ時代錯
謬ニ属シ労働者ノ人格ヲ認メ其權利ヲ尊重シ徒テ之カ團
体交渉権ヲ認ムル事労働能率ヲ高クル所以ナリ産業ノ振
興ニ屬スル諸般ノ施設中労働組合ト相待ツテ格メテ其効
果ヲ擧クル者少カラズ例ハ科学的經營法ノ如キ是ナリ

第八項 行政財政ノ整理續行
本會ハ再三此点ヲ緊要視シタレハ之ヲ繰返ス要ナキモ未
カ負担軽減ヲ産業振興ノ基ト爲シ數年未歲出ノ減少ヲ續
行シテ獨ホ其手ヲ緩メサルト我國ノ緊縮力不徹底ニシテ
未年度一般豫算十六億ニ達スルモノト其間ニ著キ輕軒下

立タサレハ我産業振フニ由ナシ

リ新ノ如キ放漫ナル財政ヲ以テイカテ産業ノ振興ヲ期ス
ヘキヤ茲ニ本會ノ要望スル整理ノ要旨ヲ列挙シテ更ニ國
民ノ猛者ヲ促ス
(一) 行政組織ヲ徹底的ニ立直スト共ニ其執務振ヲ實業務
ニ改メルコト
(二) 官業ヲ民業ニ移スコト
(三) 剩餘金公債金ヲ歲入ニ繰入レテ恰モ歲出入ノ均衡ヲ
得タル如キ虚偽ノ豫算ヲ根絶スルコト
(四) 剩餘金ハ總テ公債銷却ニ充ツルコト
(五) 責任支出ヲ爲サ、ルコト
(六) 地方財政モ中央財政ト同シク徹底的ニ整理スルコト
第九項 産業ノ國際化
産業ヲ隆盛ナラシムルニハ我産業ヲ國際化シ世界人類ノ
廣ク需要スル商品並ニ其種類ノ製作ニ注意セサルヘカラ
不逞テ我生活ヲモ國際化シ衣食住ノ孤立状態ヲ改メルノ
心掛ナカル可ラス是レ因ヨリ容易ノ事ニアラサレトモ責

任ノ地位ニアル者ハ特ニ此心掛ヲ保テテ其方向ニ我生活
状態ヲ轉換スルコトニ努ムルノ要アリ
是レト共ニ世界戦争ノ餘瘡未タ癒エス歐洲經濟界復旧セ
ザルハ我産業振興ノ支障ナレハ之カ回復ニ努力シ一月モ
速ニ其創痍ノ政治ニ参加スルコト亦産業上必要ノ措置也
第十項 金解禁
是レ亦兩度其必要ヲ説キタレハ之ヲ繰返スノ要ナキモ産
業ノ健全ナル發達ニハ我貨幣價值ノ回復必須要件ナリ因
價下落一時輸出ヲ増加スルヲ見テ其回復ト産業振興トハ
再立セサル如ク考フル者アルモ是レ誤解ニシテ因價下落
ハ保護關稅ト均ク健全ナル産業ノ勃興國民全般ノ利益ニ
ハ甚タ有害ナリ貿易増進ト貨幣平價トハ密接ノ關係ヲ有
シ我國ヲ金融ノ一中心タラシメントスル理想モ因價回復
セザレハ其望ナシト知ルヘシ
(終)

一、天惠稀薄人口稠密貨幣所得低ツテ高キ我國民經濟ニ於
 テハ外國貿易絶對ニ必要ナリ
 一、産業振興ハ貿易増進ノ基ナリ
 一、産業振興ノ核心ハ労働能率ノ向上即チ真義ナル生産費
 ノ低減ニアリ
 一、生産費低減ニ有害ナル関稅消費稅ノ撤廢ハ産業振興ノ
 第一歩ナリ
 一、保護政策ハ依頼心ヲ助長シ道義ヲ廢頽シ昂リ且一度施
 シタル保護政策ハ之ヲ廢止スルコト頗ル難シ
 一、産業ニ有害ナル現行関稅消費稅中直ニ廢止ニ難キ事由
 アルモノハ年々期々之ヲ撤廢スル期スヘシ
 一、重要産業ニテ将来發達ノ見込アルモノハ嚴ニ時期ヲ
 限りテ發達ヲ助成スヘシ

議案中前田委員會ニ於テ協議セル部分ノ要旨
 大正十四年十月三十日
 貿易増進産業振興策(題名未定)

第一項 緒言要項

一、天惠稀薄人口稠密貨幣所得低ツテ高キ我國民經濟ニ於
 テハ外國貿易絶對ニ必要ナリ
 一、産業振興ハ貿易増進ノ基ナリ
 一、産業振興ノ核心ハ労働能率ノ向上即チ真義ナル生産費
 ノ低減ニアリ
 一、生産費低減ニ有害ナル関稅消費稅ノ撤廢ハ産業振興ノ
 第一歩ナリ
 一、保護政策ハ依頼心ヲ助長シ道義ヲ廢頽シ昂リ且一度施
 シタル保護政策ハ之ヲ廢止スルコト頗ル難シ
 一、産業ニ有害ナル現行関稅消費稅中直ニ廢止ニ難キ事由
 アルモノハ年々期々之ヲ撤廢スル期スヘシ
 一、重要産業ニテ将来發達ノ見込アルモノハ嚴ニ時期ヲ
 限りテ發達ヲ助成スヘシ

經濟政策會

大正十四年十月三十日

高上金利ノ低下ヲ妨クルコト少カラサルヲ以テ木材組立
家屋材料洋服地等モ亦無税品ニ加フヘキモノトス

(三) 運送費ノ低減
我國有鉄道ハ近年著シク發達シタルカ如ク見ユルト雖氏

主要幹線ノ輸送能力ノ充實ヲ措テ山間ノ支線ニ過分ノ負擔

力ヲ費スノ非難ヲ免レス例ハ山陽九條線ヲ敷設スル如キハ

線ノ儘ニ放棄シナカラ~~其~~僻地ニ新線ヲ敷設スル如キハ

錯誤ノ最モ著シキ實例ナリ又國有鐵道自體ノ收支ヲ特別會計ヲ

組織スルノ傾向ヲ生シテ不知不識鐵道直接ニ支テ充且至大

慮スルノ傾向ヲ生シテ國家産業ノ消長ニ直接ニ支テ充且至大

ノ關係アル運賃特ニ原料及生産品ノ運賃ノ低下ニ充分願

念スルノ暇ナキニ至ルヲ遺憾トス元來國家ノ産業政策ヲ

基調トシテ運賃ヲ定ムヘキコトハ實ニ鐵道國有ヲ決行シ

タル一大理由ナリシカ今日ニ至リテハ之ヲ忘レラレタル

次ニ我國ノ海陸連絡及内地水運ノ設備ハ今尚ホ頗ル不完

全ニシテ貨物ノ輸送上ニ多額ノ費用ヲ要スルハ顯著ナル

事實ナリ之ヲ改良シテ輸送費ノ節約ヲ計ルハ官民ノ最モ

努ムベキ急務ナリ又國內各地ニ於ケル小運送方法ノ現状

ハ最モ幼稚ニシテ驚クヘキ原状ニ於テ今尚ホ存續實行ス

ルモノニ費用ヲ増シ時間ヲ失ヒ物價ノ低下ヲ妨ゲ國民ノ生

活ニ産業ノ隆興ニ意外ノ障害ヲ及ホシツ、アルコトハ一日速ニ其ノ時

漸ク識者間ニ論議セラル、ニ至レリ此點ハ一日速ニ其ノ時

改善ヲ謀リ其ノ實施ヲ断行スヘキモノトス

(四) 動力燃料費ノ低減
動力燃料ノ改米工業國ニ比シテ著シク不廉ナルコト我産

業不振ノ一要因ナリ其原由ノ一ハ半額税ノ撤廢運送設備ノ改良

苛重ナル負担ニ存スル力故ニ關稅ノ事ナリ之ト共ニ

金融ノ疏通等動力燃料費ノ低減ニ關スル必要ナル事ナリ之ト共ニ

動力ニ於テハ現時ノ如ク送電線不統一ナルハ自ラ動力費

ヲ高ムル所以ナレハ之ヲ統一スル必要ナル事ナリ但シ其弊ニ陷ル

力ノ独占ヲ束シテ價格ノ騰貴ヲ促サハ反テ其弊ニ陷ル

三

へキヲ以テ此点ハ監督官廳ニ於テ宜ク注意スヘシ
燃料ノ不廉ナルハ我内地炭坑概テ既ニ貧弱トナリテ多額
採炭費ヲ要スル事其一因ナル炭坑業者賣價ヲ協定シ
テ不當ノ利益ヲ貪リ且比較的廉價ナル換炭ヲ内地ニ輸
入セサルコト亦主タル原因ナレハ斯ル不法行為ハ官廳ニ
於テ嚴シク之ヲ取締リ燃料ノ低廉ヲ図リ以テ産業振興生活
安定上ノ障礙ヲ排除スヘシ
(五)新式機械ノ合理的應用
生産費低減ノ一策ハ新式機械器具ヲ合理的ニ應用シテ勞
働効率ノ高上ヲ圖ルニアリ各種ノ工業中最新式ノ機械類
ヲ設備スル者少カラサレトモ之ヲ合理的ニ使用シテ其効
率ヲ發揮スルモノ案外少キハ「不熟練」ヨリモ「本視察談」
見ユルカ如シ其原因ハ職工ノ不熟練ヨリモ「本視察談」
新見ユルカ如シ其原因ハ職工ノ不熟練ヨリモ「本視察談」
師及職工長ノ對シテ實際的技術劣リ之カ爲ノ精巧ナル機械、
技師及職工長ノ對シテ實際的技術劣リ之カ爲ノ精巧ナル機械、

發達並ニ其應用ヲ妨タルコト勞働能率ノ低キ一因ナリ故
ニ彼等ノ技能ヲ高ムル爲メ(一)大學卒業生ヲ悉ク職工ト同
様ノ實務ニ就カシムルコト(二)職工長タルヘキ有爲ノ青年
ヲ工業先進國ニ送りテ實際的技術ヲ習得セシムルコト(三)
工業先進國ノ職工長ヲ傭入ル、コト(四)職工長ノ優遇法ヲ
講スルコト等ノ要アリ
(六)理化學ノ研究機械ノ發明
理化學ノ研究ハ品質ヲ高メ機械ノ發明ハ原價ヲ低下スル
ノ結果ヲ生スルカ故ニ改米産業界ハ多額ノ費用ヲ各マス
シテ常ニ之ニ從事シ日モ足ラサル有様ナリ然ルニ我國ノ
産業界ハ目前ノ事ニ齟齬シ生産能率高上ノ大因タル理化學
學ノ研究機械ノ工夫ニ務ムル者甚少キカ如シ是レ一ハ
其餘裕ナキノ致ス所ナランモ多クハ其專ヲ重要視セサル
爲メナリ産業ノ將來ニハ此二者極メテ大切ナリ
(七)總係費ノ節減
總係費ノ多額ナルコト我管利會社共通ノ弊風ナリ就中特
四

ニ多額ナルハ重役ノ報酬ニシテ一人當リノ報酬多キノミ
ナラス取締役ノ概テ多キニ失ス又一會社以上ノ專務
取締役ヲ兼テ各社ヨリ報酬ヲ收受スル者スラコレアリ
ノ如キハ經費ノ點ノヨリ報酬ヲ事業經營ノ点ヨリ見ルモ不
忠ノ誹ヲ免レズ其他會社合併ニ際シ旧重役ヘノ交附金多
額ニ過タルコト一般經費緊縮ヲ缺クコト公私ノ區別ナリ
シ私事ノ爲メノ社費ヲ濫用スルコト等廓清スヘキ通弊ナリ
總係費ト至大ノ關係アル事ハ大量生産ナリ規模ヲ割合ハ
テ大量ニ生産スレハ程輒近改未産業思カ大量生産ニ
従ッテ減スルノ道理ナレハ大量生産ノ事業ハ高産業組織ニ
努ムルハ宜ナリト云フヘシ
項ニ於テ説ク所アルヘシ
(八)金融ノ疏通 (未了)
(七)公課ノ軽減 (未了)

甲寅末

國策

大正貳年十一月二十日

我國際貸借ヲ改善シ以テ國富ヲ増殖スヘキ根本的方策ト
シテ本會ハ(甲)國內ノ消費ヲ節約スルコト(乙)産業振興ノ爲
ニ物價及金利ノ低落ト生産能率ノ増進トヲ謀ルコト(丙)田
價ヲ回復シテ國際取引上ノ損失ヲ緩和スルコト(丁)田
下ノ急務ト認メ此ノ目標ニ到達スル爲ニ以下列記ノ諸項
ヲ實行スルコトヲ決議ス

(一)中央及地方政費ヲ徹底的ニ緊縮シテ國民ノ負擔ヲ輕
減スルコト

(二)一般國民ニ對シ節約ヲ獎勵スルコト
理由要領(甲)中央政費緊縮ノ必要ハ既ニ前回報告ニ於テ之ヲ
悉セルヲ以テ復々絮說セズ本會ノ期待スルモノハ徹底
的緊縮ニシテ國民ノ賦課ヲ輕減シ國債償却ニ充當ニ得
ル程度ニ達スルニアラサレハ不可ナルコトヲ茲ニ繰返
シ聲明スルモノナリ

次ニ近年地方政費膨脹ノ趨勢ハ寧ろ中央政費ヨリモ急

激ナリ中央政費ハ全國民ノ注視ノ下ニ在ルモ地方費ハ一地方ニ局限セラルク、ヲ以テ不知不識ノ裡ニ増加セラレ、ソノアリ而モ均シク國民ノ負擔ニ歸スルモノナルヲ以テ之ヲモ緊縮スルニアラサレハ徹底的ニ國費ヲ節約スルノ効果ナシ

然レモ國費ノ削減ヲ希フト同時ニ一般國民ニ對シテモ亦一大覺悟ヲ要求セサルヘカラス、政洲戰時中増長シタリ、浮華浪費ノ風習ハ猶ホ現存シ、財界ノ田復ニ至大ノ故障ヲ爲セリ、殊ニ近來貿易ノ好轉農村ノ豊潤ヲ見テ早クモ民心弛緩ノ傾向アルハ最モ警戒ヲ要ス、政府ハ節約獎勵ノ爲ニ自ら模範ヲ毎レ教育家ハ學生間ニ勤儉ノ美風ヲ扶植スルヲ爲ニ努力シ、民間先覺者モ亦適宜ノ方法ヲ講スルコト緊要ナリ

消費ノ節約ヲ以テ消極的施設ト看做スモ、自然物價ヲ低下シ、又節約ニ因テ生シタル餘裕ヲ生産的ニ利用シ得ルノ効果アルヲ以テ是點ヨリ觀レハ積極的の方策ト稱スル

ヲ得バシ

(三) 關稅中生活生産ニ有害ナルモノヲ撤廢輕減スルコト

(四) 鹽ノ專賣ヲ廢止スルコト

(理由) 鹽ノ專賣ニ關稅ヲ高率ニ置クハ生産費ヲ増大シテ産業ノ發達ヲ沮害シ、一般國民ノ生活並ニ精神ニ有害ナリ、多數者ノ犧牲ノ下ニ或ル特種ノ事業ヲ保護スルハ結局國家ノ損失ニ歸スルコトヲ思ハサルヘカラス

鹽ノ專賣カ工業ノ發達及一般生活ニ有害ナルコトハ論ナキ所ニシテ特ニ撤廢ノ要アリ

(五) 官業ヲ民業ニ移スノ方針ヲ取ルコト

(理由) 官業ヲ政府ニ於テ企業ヲ經營スルハ損益ヲ度外ニ置クヲ以テ經濟上常ニ不利ナルノミナラス各種ノ賦課ヲ受クル民間ノ同一事業ヲ壓迫スルコト大ナリ之ヲ整理シテ民業ニ移スハ産業ヲ有利ニ導クト同時ニ純益ハ民間ニ放散セラレ、資金ヲ增殖スヘシ

(六) 鐵道ノ能率ヲ増進シ且運賃ヲ低減スルコト

(七) 海陸聯絡ヲ改善シ運河ノ設備ヲ完成スルコト

(八) 運送方法ヲ改良スルコト

(理由要領)

運送方法ノ改良ハ物價ヲ低落セシメ貿易状態ノ改善ニ至大ノ關係ヲ有ス我國有鉄道ハ多額ノ費用ヲ投

下シタルニ拘ラズ經濟上ノ利害ヲ考慮スルコトニ關シテハ猶ホ遺憾ノ點頗ル多シ宜シク改善ヲ加ヘ運賃ヲ低

下スルコトヲ謀ルヘシ

海陸聯絡ニ關シ官民ノ注意到ラサルノ憾アリ殊ニ運河

ヲ利用スルコトヲ疎外セルハ運送ノ円滑ヲ缺キ運賃ノ

低下セサル一原因ナリ

又ハ運送ノ現狀ハ諸種ノ事情ノ爲ニ頗ル不完全ニシテ

多敷商品ノ價格ニハ高キ運賃カ包含サレ又其ノ運賃ノ

大部分ハ小運送費ニ因テ占メラル徒テ之カ改善ハ物價

ヲ低下スル爲ニ頗ル有効ナルヘシ

(九) 操業短縮製産制限賣價協約等消費者ノ不利益タル同

業協定ヲ取締ルコト

(理由要領) 同業組合ハ如何ニシテ製産費ヲ低下スヘキカヲ

研究シ國民ノ利益ヲ圖リテソコソ意義アルモノナルニ現

在ハ全然反對ノ目的ヲ有シ一般國民ヲ犠牲トシテ少數

者ノ利益ヲ謀リ其ノ結果物價ノ低下ヲ妨ケ經濟界ノ發

達ヲ抑止スルモノナリ嚴ニ取締ルコトヲ要ス

(十) 金利ヲ低下シ信用取引ノ發達ヲ図ル爲ニ左記ノ方針

ヲ取ルコト

a. 金融機關ノ組織ヲ確立スルコト

b. 銀行ノ固定債ヲ整理スルコト

c. 預金部及特種銀行ノ整理ヲ徹底的ニ實行スルコト

d. 日本銀行及普通銀行ノ營業振ヲ改善スルコト

e. 民間ノ外資輸入ニ干渉セサルコト

(理由要領) 我産業ノ發展カ滞滯セル一大原因ハ金利高キニ

過タルニ在リ此ノ如キ高利ニテハ製産上外國ト競争ス

ルコト至難ナリ又信用取引發達セズ金融業者カ取引上

常ニ疑惑ノ念ヲ抱クコトハ金融界ノ円滑ヲ妨タル原因ナ

リ

リ是等弱点ヲ除去シ金利ノ低下ヲ謀ルノ必要アリ
又民間事業會社カ依利ノ外資ヲ輸入シ之ヲ有利ニ使用
スルコトハ金利ノ降下ヲ促カスモノニシテカノ外債ヲ
起シテ不生産的ニ投下スルモノト趣ヲ異ニス政府カ其
ノ威力ヲ以テ之ヲ防壁スルヘキ理由アルヲ見ス
(+) 生産能率ヲ改善スル爲ニ左ノ方針ヲ取ルコト
a. 勞資關係ノ円満ヲ謀ルコト
b. 工業組織ノ上ニ根本的改革ヲ加ヘ勞力利用ニ心ヲ注
グコト
c. 新式機械器具ノ合理的應用訓練ヲ普及セシムルコト
(理由要領) 資本家ト労働者トカ利害相及スルノ立場ニ在ル
ノ親アルハ我産業界ノ一大缺陷ナリ労働賃金ハ寧ろ之
ヲ引上ケケ同時ニ生産能率ヲ増進シテ物價ノ低廉ヲ謀リ
勞資融和シテ利益ヲ分配スルコト産業上頗ル有利ナリ
トス
次ニ我國ハ天惠ニ乏シク資本亦潤澤ナラサルヲ以テ勞

力ヲ以テ之ヲ補ハサルヘカラス幸ニ勞力ハ豊富ナルカ
故ニ之ヲ利用シテ生産ニ寄與シ失業者ヲ防止スルト同
時ニ國富ノ増殖ヲ期セサルヘカラス之カ爲ニ工業組織
ニ改革ヲ加ヘ工業ヲ選擇シ總テ有利ナルモノヲ助長ス
ルノ必要アリ
最後ニ新式機械ノ合理的應用未ダ行ハレサルコト亦物
價高ノ一因ナルヲ以テ此ニ關シ施設改良スヘキモノ
多カルヘシ或ハ一時改良ノ優良ナル技師ヲ雇入ルカ
如キ亦一方方法ナルヘシ
(十二) 四價回復ノ爲ニ金ノ輸出ヲ自由ニスルコト
(理由要領) 既ニ再度マテ極論ニタルヲ以テ繰返ヘスノ必要
ナキモ所謂重金主義ヲ取ル一部論者ノ迷夢未ダ覺メス
依然恐怖ノ念ヲ抱キ又當局者ハ其ノ利益ヲ認メナカラ
斷行ノ勇氣ニ乏シク正貨現送等ノ姑息手段ヲ取レルヲ
遺憾トス既說ノ如ク解禁ハ決シテ恐ルニ足ラス金ノ
輸出自由トナシハ金ノ流出ハ自動的ニ止リ物價ヲ低下

シテ製産ヲ奨励シ結局貿易上有利トナルヲ以テ
借ノ改善ハ之ニ優ル捷徑ナシ區々タル山ヲ施シ
ノ利益ヲ逐フカ如キハ何等永遠ニ益スル所ナシ
替安ノ為ニ輸出額増殖ノ親アルモ是レ我勞働ヲ
廉價スルモノニシテ同時ニ輸入品ノ購買ニ於テ
以上ノ高價ヲ拂ヒ二重ニ損失ヲ招キソレヲ食之
キツ、アルヲ思ハサルヘカラス之ヲ救済スルノ方
金ノ輸出ヲ自由ニスルニ在リ

乙案

貿易増進策

大正十四年十一月二十日
委員會安部

本案ハ甲案ト異名同策ナルモ甲案ハ研究ノ範圍狭小ニ
失スルノ感アリ且其名稱重高主義者ノ主張ト混同セラ
ル、嫌ナルヘキヲ以テ題名ヲ變更シ稍廣キ見地ヨリ更
ニ別案ノ作成ヲ試ミタルモノナリ

第一項 緒言要旨

天恵乏ク人口稠密ナル我國ニハ外國貿易ノ發展絶對必要
ナリ然ルニ其現状甚ク振ハスレテ一年總額人口一人當リ
金額歐洲十國ノ六七分ノ一ニシカ當ラズ而モ其内容ニ至
リテハ殊ニ貧弱ニシテ彼等ニ對シテ著キ遜色アリ今之カ
根本策ヲ樹テ確實ナル基礎ノ下ニ之カ増進ヲ圖ルノ要切
實ナリ固ヨリ一般經濟力進マサレハ貿易獨リ進ムヲ得サ
ルモ其發達ヲ妨タル障礙ヲ除去シ且適當ナル培養ヲ施シ
テ之ヲ健全ニ保育セハ少クモ歐洲十國ト比肩スルニ至
テ難カラサルヘシ其方法ノ要旨ハ資本労働ヲ適所ニ善所
シテ其効率ヲ高クシ在リ従ワテ我國ニ適合セサル産業

ヲ保護シテ資本労働ヲ善用スルニトシテ深ク戒メサルハ力
ヲ且已ニ貿易ヲ以テ民福増進ノ基トセントスル以上ハ
産業ヲ成ルヘク国際化シテ世界共通ノ商品ヲ作製スルノ
工夫肝要ナリ徒テ我國民生活ヲ漸次国際化スルコト亦當
然ノ歸結ナリ本會ハ是等ノ見地ヨリ茲ニ貿易増進策ヲ樹
テ大方ノ示教ヲ乞ハント欲ス

第二項 生産費低廉策

(一) 原料並原料用製品ノ関稅撤廢
工業原料ノ大部分ヲ輸入スルノ要アル我國ニ於テ之ニ
関稅ヲ課スルハ最モ策ノ拙ナル者ナリ而シテ工業既ニ
加工産業ノ道程ニ進ミタル今日ニ於テハ單純ナル原料
ノミナラス原料用製品ノ関稅ヲモ撤廢シテ力ヲ精製工
業ノ發達ニ注クコト肝要ナリ撤廢スヘキ関稅品目左ノ
如シ
麻織絲、毛織絲、綿織絲、生絲、柞蠶、銅、革類、鐵等
我銅坑ハ既ニ收支償ハサル地層ニ近クキ之ヲ保護セシ

トセハ將來益國民ノ負擔ヲ増加スルノミナレハ之カ保
護ヲ斷念シ安價ナル外鋼ヲ使用シテ生産能率ヲ高クル
ヲ可トス鐵モ内地製品ヲ保護スル爲メ塊錠條竿板等ニ
関稅ヲ課スルモ之カ輸入ヲ防ケハ機械等ノ原料ニ多量
ノ不足ヲ来スノ惧アルハ故ニ重稅ヲ課スル能ハス進退
兩難ノ姿ナリ斯ル曖昧ノ状態ヲ持續セシヨリ寧口鐵ノ
関稅ヲ撤廢シテ機械工業ノ生産費ヲ低廉ニシ此種産業
ノ發達ヲ圖ルヲ得策トス之ト共ニ運送法ノ改良金融機
関ノ整備等ニヨリ更ニ生産費ノ低廉ヲ圖レハ製鐵事業
ノ發達亦決レテ不可能ニアラス

(二) 運送費ノ低廉
運送費方外ニ不廉ナルコト産業不振ノ一大原因ナレハ
之カ低廉ヲ圖ルコト急務ナリ其方法ハ第三項ニ於テ詳
述スヘシ

(三) 生活必需品ノ関稅及消費稅撤廢
工業原料ノミナラス生活必需品モ亦我國情トシテハ多量

輸入ノ要アリテ今後産業ノ進ムト共ニ其輸入額益増
加スヘシ然ルニ内地農産物保護ノ為メ関税ノ負担ヲ荷
フ必要品少カラステ高メニ外経済状態ヲ不良ナラシ
メテ其能率ヲ低下スルト共ニ金利ノ降下ヲ妨クルカ故
ニ二重ニ生産費ノ低減ヲ妨クルモノナリ加ニ必要品ノ
関税カ一般物價ノ水準ヲ高メテ輸入増加ノ因タルコ
トス着過ス可ラサル害悪ナリ廢止スヘキ関税品目左ノ
如シ

米、砂糖、卵、肉類、豆類、コンテニス、ミルク等
砂糖消費税亦其ノ関税ト共ニ廢止スヘキモノナリ國民
一般ハ多年製糖業保護ノ為メ他國ニ比類稀ナル高價ノ
砂糖ニ苦ミツ、ナリ臺灣カ甘蔗ノ栽培ヨリモ未作ニ適
當トナレル今日製糖保護ハ之ヲ廢止シテ一般産業ノ發
展ニ資スルコソ適切ナレ而シテ之カ保護廢止方法ハ漸
次関税消費税ヲ輕減シテ之ヲ期シテ之ヲ全廢スヘシ

塩ニハ関税消費税ナキモ其專賣法ハ苛重ナル課税ニ均
シク之カ為メ塩ノミナラス醬油味噌漬物塩魚等國民全
般就中細民ノ必要品ヲ不合理ニ高價ナラシム加ニ基礎
工業タル曹達ノ製造ニモ大ナル支障タレハ是レ亦時ヲ
期シテ全廢スヘシ塩專賣法ノ新設セラレタル財源上ノ
理由已ニ消滅シタル今日之ヲ存置スヘキ何等ノ口實ヲ
認メス國家有事ノ日去々、如キ理由ハ固ヨリ取ルニ足
ラサルナリ

④ 新式機械器具ノ合理的應用

生産費低減ノ一策ハ新式機械器具ヲ合理的ニ應用シテ
労働効率ノ高上ヲ圖ルニアリ各種ノ工業中最新式ノ機
械類ヲ設備スル者ソカラサレトモ之ヲ合理的ニ使用シ
テ其効率ヲ發揮スルモノノ意外少キハ「ハ」博士日本視
察談ニモ見ユルカ如シ其原因ハ職工ノ不熟練ヨリモ寧
口監督技師ノ人ヲ得サルニアリ我職工ハ指導宜キヲ得
レバ其能率改良ノ職工ニ對シテ敢テ遜色ナキモ之カ監

智者タルヘキ技師ノ技能低劣ナルカ為メ精巧ナル機械
モ其力ヲ發揮スルニ由ナク勞働能率從ワテ擧ラストハ
識者ノ一致シタル意見ナリ産業者ノ猛省スヘキ要項ナ
リ

(五) 利率ノ低下 第四項ニ詳述スヘシ
(六) 公課ノ軽減 第八項ニ詳述スヘシ

(七) 諸係費ノ節減
諸係費ノ多額ナルコト我營利會社共通ノ弊風ナリ就中
特ニ多額ニ失スルハ重役ノ報酬ニシテ之カ為メ生産費
膨脹シ生産能率ヲ低下スルコト明白ノ事實ナリ産業不
振ナル現狀ニ於テ第一ニ切斷スヘキモノハ若會社重役
ノ報酬ニシテ彼等先ヅ自己ノ所得ヲ節減シテ後勞働者
ノ賃金ヲ論マヘキモノトス

(八) 理化學ノ研究
新化學ノ理化學ノ應用發明カ勞働ヲ節約シテ其ノ能率
ヲ高クル捷徑タルコトハ言フ迄モナキコトニシテ改米

ノ産業界ハ多額ノ費用ヲ吝マシテ常ニ之ニ從事シ日
毛足ラサルノ有様ナリ然ルニ我國ノ産業界ハ目前ノ事
ニノミ醒醒シ永遠ノ利益タル理化ノ研究ニ務ムル者甚
ク少キカ如シ是レ一ハ其餘裕ナキノ致ス所ナラズモ多
クハ其事ノ價値ヲ辨ヘシテ之ヲ輕視スルノ致ス所ナ
リ産業者自ラ之ニ從事スヘキノミナラス教育界亦之ニ
留意シ我生産能率ノ高上ヲ圖ルノ工夫肝要ナリ

第三項 運送機關ノ改良

(二) 鐵道ノ改良

(三) 小運送方法ノ改良

(三) 海陸聯絡設備ノ改善運河ノ利用開鑿

(植村君ノ立案ニ讓ル)

第四項 金融改善

金利高率ニシテ資本ノ効率ヲ低下スルコト我産業不振ノ
一大原因ニシテ現時ノ如キ金融狀態永續スル間ハ貿易増
進ノ見込ナキカ故ニ之カ低減ヲ圖ルコトハ生産費節約ノ

点ヨリモ亦堅實ナル企業心振興ノ上ヨリモ極メテ必要ノ事ナリ而シテ之ヲ達成スルニハ大体尤ノ方法ヲ實行スルヲ良トス

② 銀行組織確立

日本銀行ト一般銀行ト組織上何等ノ聯絡ナキコト我金融機關ノ欠点ナレハ日本銀行ヲ改造シ一般金融機關ヲ其出資者トシテ金融機關ノ統一ヲ保ツヘシ又勸業銀行ヲ不動産銀行ノ中心タラシメ内地ノミナラス殖民地不動産銀行ノ整理ノ事ニ當ラシムヘシ

③ 銀行固定貸ノ整理

銀行固定貸ノ整理ヲ怠リ多額ノ損失ヲ資産ニ計上スルコト金利ノ高キ大原因ナレハ之ヲ切斷シテ健全ノ状態ニ復スルコト必要ニシテ場合ニ由リテハ銀行ヲ改造スルコト止ムヲ得サルナリ銀行カ自発的ニ之ヲ遂行スルコト最モ望マレキコトナリモ其事不可能ナラハ特別ノ法律ヲ制定シテ之カ實行ヲ期スル外ナシ

④ 信用取引ノ獎勵

信用取引ノ獎勵ハ本會ノ已ニ主張セル如ク獨立ノ機關タラシメノ特種銀行ノ不良ナルモハ之ヲ改造シテ福根ヲ絶ワシ

⑤ 産業資金ノ輸入

民間事業會社カ低利ノ外資ヲ輸入シテ有利ニ之ヲ使用スルコトハ金利ノ降下ヲ促ス所以ナレハ政府ハ之ヲ抑制ス可ラス

第五項 生産經營ノ改善

① 生産組織

主タル産業國ハ各各自ノ長所ヲ有スレトモ大量生産ト之ニ伴フ生産ノ組織ノ確立トハ各國共通ノ産業方針ナ

リ然ルニ我國ノ産業界ニハ殆ト何等ノ組織ナク偶々コレアル者ハ消費者ヲ苦ムル賣價協定ノ如キモノニ過キス産業ヲ振興シ國際貿易ニ雄飛セシトスルニハ其基礎タル生産ノ組織ヲ作成シ共力シテ事業ノ経営ニ當ルコト最モ必要ナリ組織ニ種類多ク今一々之ヲ指摘シ難キモ大体横式組織ヨリモ縦式組織ヲ優レリトス即チ同業ノ聯合ヨリモ一種ノ産業ニ必要ナル各種業態ノ聯合組織ヲ優レリトス例ヘハ絹織物業者カ其原料タル生絲製造業者ト利害ヲ共ニスルハ勿論其製品ノ販賣業者トモ共同経営スルヤキ事ナリ産業界ノ注意スヘキ一要件ハ組織的經營ナリ

三 科学的經營
次ニ實行スヘキ事ハ科学的經營ナリ雇傭者ノ責任ヲ限定シテ其精神ヲ集中シ之ヲ以テ全般ノ能率ヲ高メ勞力ヲ節約スルコトナリ改米ノ大工場ニハ計畫係ヲ置キテ常ニ科学的經營ニ力ノ労働ノ能率増進ヲ怠ラズ貸金率

合理的決定モ科学經營ニ由リ始メテ之ヲ實行スヘシ

三 販賣法ノ改善
生産者ノ活動ハ製造事業ニ限ラレズ製品ノ販賣即市場開拓ニモ及ボサル、コト産業界ノ近状ナリ生産業ト販賣業トノ利害ハ同一ニシテ利害及セサルヲ念トセサル可ラス生産販賣ノ分業近時著ク減少シ来レルコトハ注目スヘキ現象ナリ且買手ハ次第ニ受身トナリ賣手活動的トナル傾向モ亦注意スヘキ現象ナリ我生産業者ハ海外ニ向テ製品廣告ニ努ムルヲ要ス

第六項 實業教育ノ振興
産業振興ノ基礎ハ實業教育ノ振興ニ在リ言フ迄モナク教育ノ本旨ハ特殊ノ能力ヲ啓発スルニ在リ然ルニ我國ノ教育ハ注入的ニシテ教育ノ本旨ハ全ク没却セラレ兒童ノ能力ヲ壓抑シ其發育ヲ妨クルノミナリ獨乙産業ノ興リタル最大因ハ教育就中實業教育ノ振興ニ存シ特殊ノ能力ヲ有スル技術者全國ニ一階級ヲ爲シ産業ノ中心タリ教育ノ本

立タサレハ我産業振ヲニ由ナシ

第七項 労働組合ノ認定

労働組合ノ成立ハ我産業ヲ發達セシムル一要件ナリ今之ヲ詳説スルノ餘裕ナキヲ以テ簡單ニ之ヲ陳ヘシニ我産業界ニハ労働者ヲ成ルヘク安ク且或ルヘク長ク使用スルヲ利益ナリト考フル者猶多教ナルモ此ノ労働採取觀念ハ時代錯誤ニ属シ労働者ノ人格ヲ認メ其權利ヲ尊重シ徒ラ之カ團體交渉ヲ認ムル事労働能率ヲ高ル所以ナリ産業ノ振興ニ属スル諸般ノ施設中労働組合ト相待ワテ格メテ其効果ヲ舉クル者少カラズ例ヘハ科学的経営法ノ如キ是ナリ

第八項 行政財政ノ整理續行

本會ハ再三此点ヲ緊説シタレハ之ヲ繰返ス要ナキモ未國カ負擔軽減ヲ産業振興ノ基ト為シ數年來歳出ノ減少ヲ續行シテ獨ホ其手ヲ緩メサルト我國ノ緊縮力不徹底ニシテ未年度一般豫算十六億ニ達スルモノト其間ニ著キ輕軒下リ斯ノ如キ放漫ナル財政ヲ以テイカデ産業ノ振興ヲ期スヘキヤ茲ニ本會ノ要望スル整理ノ要旨ヲ列挙シテ更ニ國民ノ猛省ヲ促ス

(一) 行政組織ヲ徹底的ニ立直スト共ニ其執務振ヲ實業務ニ改メルコト

(二) 官業ヲ民業ニ移スコト

(三) 剩餘金公債金ヲ歳入ニ繰入レテ恰モ歳出入ノ均衡ヲ得タル如キ虚偽ノ豫算ヲ根絶スルコト

(四) 剩餘金ハ總テ公債銷却ニ充ツルコト

(五) 責任支出ヲ為サハルコト

(六) 地方財政モ中央財政ト同シク徹底的ニ整理スルコト

第九項 産業ノ國際化

産業ヲ隆盛ナラシムルニハ我産業ヲ國際化シ世界人類ノ廣ク需要スル商品並ニ其種類ノ製作ニ注意セサルヘカラズ徒ラ我生活ヲモ國際化シ衣食住ノ孤立状態ヲ改メルノ心掛ナカル可ラス是レ因ヨリ容易ノ事ニアラサレトモ責

任ノ地位ニアル者ハ特ニ此心掛ヲ保テ其方向ニ我生活
 状態ヲ轉換スルコトニ努ムルノ要アリ
 是レト共ニ世界戦争ノ餘瘡未タ癒エズ改州経済界復旧セ
 甘ルハ我産業振興ノ支障ナレハ之カ回復ニ努力シ一日モ
 速ニ其創痍ノ政治ニ参加スルコト布産業上必要ノ措置也
 第十項 金解禁
 是レ布兩度其必要ヲ説キタレハ之ヲ繰返スノ要ナキモ産
 業ノ健全ナル發達ニハ我貨幣價值ノ回復必須要件ナリ田
 價下落一時輸出ヲ増加スルヲ見テ其回復ト産業振興トハ
 再立セサル如ク考フル者アルモ是レ誤解ニシテ田價下落
 ハ保護関稅ト均ク健全ナル産産ノ勸奨国民全般ノ利益ニ
 ハ甚タ有害ナリ貿易増進ト貨幣平價トハ密接ノ関係ヲ有
 シ我國ヲ金融ノ一中心タラシメントスル理想モ円價回復
 セサレハ其望ナシト知ルヘシ

(終)

金融制度改善方策第一回報告 経済政策研究会
 大正十五年七月十四日委員会決議事項

一 總裁 日本銀行制度改正要綱
 之ヲ認可スルコト、是等被選者ハ株主ニ限ラサルコト
 一 新參 總裁ヲ置キ重要事項ノ評議ニ其ラニルコト
 一 總裁 副總裁及理事ヲ以テ重役會ヲ組織スルコト
 一 參事 選擧方法其他ニ関シ詔文ヲ以テ規定セラルヘキ
 一 重典 事項尤如シ
 (一) 人員七名
 (二) 任期五年トシ重任ヲ許サス
 (三) 詮衡員會 大藏大臣東京交換所委員長大阪交換
 所委員長三名ヲ以テ之ヲ組織ス
 (四) 被選者資格 三名中四名ハ十五年以上金融業ノ
 經驗ヲ有シ其實際ニ精通スル者三名ハ十五年以上
 商工業ノ經驗ヲ有シ其實際ニ精通スル者トス

(五) 評議スヘキ事項

- (1) 金利
 - (2) 政府ト交渉ナル事件
 - (3) 日幣以外ノ業務例ハ銀行取締ニ関スル如キ臨時業務
 - (4) 決算并利益処分
 - (5) 其他株主總會ニ提出スヘキ事項
 - (6) 内規ノ制定又ハ変更
 - (7) 其他ノ重要事項
- 一、法律
 一、法律ヲ以テ銀行検査ノ權能ヲ日本銀行ニ委任セラルヘキコト、
 検査ノ結果ハ日本銀行ヨリ大藏省ニ報告スヘキコト、
 検査員ノ服務規律ヲ制定シ秘密漏洩等ノ弊ヲ防止スルコト、
 (大藏省ノ銀行検査規程ハ追テ協議決定スヘシ)
 一、兌換券發行ノ稅ニ代ユルニ收益納付金ヲ以テスルコト
 (其ノ割合ハ立案ノ上委員會ニ附議スヘシ)

金融制度改善方策

大正十五年七月十四日委員會議案

第一

日本銀行ニ関スルモノ

其一 根本問題ニ屬スルモノ

甲 安案

金融制度調査會ノ發表ニタルカ如ク從來ノ事情沿革ヲ顧慮セシテ新ニ中央銀行ヲ設立スルコト、之同會ノ立案ヲ基礎トシ案甲議ヲ進ムルコト

乙 安案

現在、株主ヲ其儘ニ存シ普通銀行其他ノ金融機關ヲ強制的ニ新株主ト為スコトニ案發シ組織機能ノ改善吾案ヲ立ツルコト

丙 安案

現在、株主ヲ基礎トシテ増資ヲ行フ外制度上ニ變革ヲ加フルコト、其

重ナルモハ左ノ諸点ナルヘシ

一、兌換券ノ伸縮的制限法ヲ廢シ比例準備法ヲ採ルコト

二、發行稅ヲ廢シ收益稅ト為スコト

三、重役ヲ總テ株主選舉ト為スコト

四、諮詢機關ヲ設テテ重事項ノ評議ニ參與セラルコト、シテ法文ヲ以テ之ヲ職權ヲ明ニスルコト

五、預金準備統一方策ヲ立ツルコト

六、銀行檢査ノ權能ヲ賦與スルコト

其二、當面ノ問題ニ屬スルモノ

一、震災手形ノ割引ハ今後延期セズ一定期限内ニ決算ヲ完了セラルコト

コト

二、日本銀行カ救済ノ為ノ固定シタル貸金ハ一般營業ヲ切離シ一定年限内ニ整理ヲ完了セラルコト、本貸金額ハ保證準備發行限

度ヲ除外スルコト

度ヲ除外スルコト

第二 其他ノ特種銀行ニ関スルモノ

一、正金銀行ヲ純然タル民管ト為シ之ヲ保護ヲ廢止スルコト

二、勸業興業兩銀行ハ本来ノ使命ニ立歸リテ其ノ分野ヲ明ニシ相

侵蝕セシメサラシムルコト

三、朝鮮、臺灣兩銀行ハ之ヲ合併シ且内地ニ於テ新ニ放資ヲ為サシ

メラルコト

四、前記兩行ノ發行權ハ之ヲ日本銀行ニ統一セラルコト

五、特種銀行ノ重役、總テ株主選舉トスルコト

第三 普通銀行ニ関スルモノ

一、銀行條例ヲ改定シ左ノ規定ヲ新設スルコト

甲、資本金ノ最小限度ヲ設クルコト

乙、法定準備金ヲ増率スルコト

丙、準備金ハ法律ヲ以テ其ノ投下物件ヲ限定シ且之ヲ供託セシムルコト

丁、各銀行ニ專務取締役一名乃至二名ヲ届出ラシメ專務取締

役ハ他業ノ兼營ヲ許サズルコト

戊、同一會社株式ノ所有額及同社債ノ所有額ヲ制限スルコト

己、一取引先ニ對スル貸出金ヲ制限スルコト

庚、銀行重役カ自己ノ事業ニ銀行資金ヲ融通スルヲ嚴禁シ之ヲ犯

ス者ニ體刑ヲ加フルコト

二、新ニ出張所ノ設置ヲ認メサルコト

三、銀行ノ貸借對照表其他營業報告ノ様式ヲ改善シ且毎週報

告ヲ銀行局ニ徴スルコト

四、銀行検査官ヲ増置シ民間ヲ銀行業務ニ經驗アルモノヲ選拔シ

テ検査ニ参加セシメ銀行検査ヲ嚴密ニ實行スルコト

五、現在ノ滯貸金ニ對シ精密ナル検査ヲ行ヒ整理ヲ要スルモノハ之ヲ方

法ヲ提出セシムルコト

六、滯貸金ノ利息ヲ利益ニ計上スルコトヲ禁止スルコト

第四 其他

一、都市小商工業者ニ對シテハ庶民金融機關ヲ地方小農ニ對

シテハ農村金融機關ヲ特設シ預金部及簡易保險等ヲ

低利資金ヲ供給セシムルコト其ノ方法ハ組合ヲ組織セシメ組合ヲ

経テ組合員ニ融通スルコト

二、信託會社ト銀行トノ競争ヲ防止スル方法ヲ講ズルコト

三、大藏省ノ官吏カ銀行ノ重役又ハ使用人ニ轉スルコトヲ法文ニテ禁止

スルコト(辭職後或年限内銀行ニ就職スルコトヲ禁止ル如キ制規ヲ設ク

計 表

ルコト)
以上普通銀行其他、部別記スル銀行検査監督ニ関スル條項ハ
日本銀行其他、特種銀行ニ之ヲ適用スルキコト言フ須クス

大正十一年十月末大正十一年度歲入歲出現計調 (實際九月末)

歲入	一〇四三、八六一、二五九
歲出	六六四、五一三、六六八
差引 歲入超過	三七九、三四七、五九一

前年同期ノ實績ニ比シ歲入經常部ニ於テ租稅並官業及官有財産收入ノ增收著シキモ臨時部ニ於テ前年度剩餘金繰入ノ減少多額ナル爲メ結局歲入總計ニ於テ八千六百餘萬圓ノ増加ニ過ギズ。又歲出臨時部ニ於ケル減額ノ主ナル事由ハ左ノ如シ

- 外務省所管ニ在リテハ
 - 在外公館營繕費ノ減少
 - 治水事業費既定年割額ノ減少
 - 軍艦製造費ノ減少
 - 製鉄所擴張費既定年割額ノ繰延
- 內務省
- 海軍省
- 農商務省

歲入臨時部

	大正 11 年度 (10月未)	前年度 (前月未)	比較 増減
官有物拂下代	9,040,947	2,028,394	7,012,553
雜收入	6,094,697	4,908,285	1,186,412
利子收入			
山東鐵道收入	5,004,322	3,948,926	1,055,396
青島事業收入	758,733	705,208	53,525
其他	331,642	254,151	77,491
高等諸學校創設及擴張費受入金	127,000	0	127,000
建築費寄付金	89,000	122,000	33,000
公共團體工事費納付金	10,000	595,028	585,028
公共團體工事費分擔金	584,000	1,291,658	707,658
學術研究獎勵金受入	3,000	3,000	0
特別會計資金繰入			
造幣局資金繰入			
陸軍營繕費補充資金繰入			
學校及圖書館資金繰入			
森林資金繰入			
公債金			
電話事業公債及金			
電信事業公債及金			
道路公債及金			
高等諸學校創設及擴張費公債及金			
森林資金殘額繰入	2,170,210	0	2,170,210
戰時利得稅	228,591	550,711	322,120
前年度剩餘金繰入	575,873,485	640,685,375	64,811,890
合計	594,220,930	650,184,451	55,963,521
歲入總計	1,043,861,259	1,027,243,198	16,618,061
備考			

歲入經常部

	大正 11 年度 (10月未)	前年度 (前月未)	比較 増減
租稅	289,392,801	237,186,203	52,206,598
地租	21,133,341	21,075,586	57,755
所得稅	31,236,152	25,300,222	5,935,930
營業稅	39,024,705	34,623,127	4,401,578
相續稅	2,429,611	1,835,911	593,700
通行稅	5,507,460	4,908,081	599,379
鑛業稅	679,255	745,960	66,705
兌換銀行券發行稅	202,504	66,891	145,613
酒稅	61,061,331	49,117,616	11,943,715
醬油稅	1,631,145	1,635,380	4,235
砂糖消費稅	30,673,287	20,442,182	10,231,105
織物消費稅	30,647,479	28,350,941	2,296,538
石油消費稅	464,324	375,610	88,714
賣藥營業稅	172,394	163,136	9,258
取引所稅	6,598,842	5,756,878	841,964
關稅	57,299,773	42,310,341	14,989,432
噸稅	631,198	488,341	142,857
印紙收入	41,600,950	36,508,946	5,092,004
官業及官有財產收入	105,843,887	86,409,402	19,434,485
郵便電信電話收入	74,861,657	67,160,943	7,700,714
森林收入	18,046,326	10,979,714	7,066,612
專賣局益金			
製鐵所益金			
配當金收入	9,652,708	5,718,402	3,934,306
四徒工錢及製作收入	2,995,487	2,194,926	800,561
其他	287,709	355,417	67,708
雜收入	12,802,691	16,954,196	4,151,505
預金特別會計ヨリ繰入			
合計	449,640,329	377,058,747	72,581,582

昭和九年... 533... 昭和九年... 127. m... 17. m...

昭和九年... 昭和九年... 昭和九年...

年次	自作農家	百分比	小作農家	百分比	自作兼小作農家	百分比	合計
明治四十四年	一七六、二九六	三二・五	一、五、一九三	二七・七	二、一五五、七六三	三九・七	五、四一九、九三三
大正五年	一六九、六二四	三一・八	一、五二四、八八九	二七・九	二、二二六、五八〇	四〇・九	五、四四七、九三三
大正九年	一六八、二五九	三一・六	一、五五七、八八七	二八・四	二、二三四、一三六	四〇・九	五、四四九、二八二

本邦農家經濟統計 (農商務省調查課)

		大正 11 年度 (10 月末)	前年度 (前 10 月末)	比較 増減
皇 室	費	2,500,000	2,500,000	0
外 務	省	10,986,351	8,820,408	2,165,943
內 務	省	20,899,815	19,608,753	1,291,062
大 藏	省	123,671,140	83,893,056	39,778,084
陸 軍	省	78,699,984	73,101,283	5,598,701
海 軍	省	57,440,808	53,896,517	3,544,291
司 法	省	12,477,378	11,542,479	934,899
文 部	省	26,847,018	22,681,399	4,165,619
農 商 務	省	13,377,328	8,419,274	4,958,054
逓 信	省	82,688,274	75,381,880	7,306,394
合 計		430,588,116	360,745,049	69,843,067
臨 時	部			
外 務	省	4,976,572	5,637,349	660,777
內 務	省	34,925,140	36,945,297	2,020,157
大 藏	省	24,762,168	18,962,299	5,799,869
陸 軍	省	18,570,798	16,443,485	2,127,313
海 軍	省	104,404,504	165,071,684	60,667,180
司 法	省	1,398,669	877,303	521,366
文 部	省	9,003,053	7,647,583	1,355,470
農 商 務	省	11,884,379	13,937,793	2,053,414
逓 信	省	24,000,269	17,152,449	6,847,820
合 計		233,925,552	282,675,242	48,749,690
歲 出 總 計		644,513,668	643,420,291	21,093,377

昭和十四年 533. — 比價高
 昭和十四年 291. — 列子耕收
 200. — 大正九年耕收
 127. m.
 17. m.

山林收益 七、九五
 山林收益 一七、八九
 山林收益 一七、八九
 山林收益 一七、八九

收入部		支出部	
收入別	收入金額	支出別	支出金額
田小作料	一〇、一七	食糧費(米、麦、油、酒等)	七八七、六二
畑小作料	三、二七	被服費(七人分)	四二〇、五一
自作收穫高	七三	住宅費(修繕、什器、薪炭、石油、電燈)	三八三、四六
麥其他(自作)	—	農業經營費(肥料、農具等)	一八五、四八
園藝其他(養蠶、茶、野菜等)	—	公費及寄附(各稅、税金、水利費等)	一、三二六、六〇
山林收益	七、九五	兒童教育費	四二七、一一
	—	社交費	二四一、八九
	—	雇人給料(二人分)	三二六、〇二
	—	酒類	一、二九、四三
	—	雜費	八〇、七一

三、耕地所有廣狹別地主戶數		大正九年	
戶數	百分比	戶數	百分比
所有及別	—	—	—
五反未満	二、三二、九三八	二、三九七、一七三	四九、三二
五反以上	一、二五八、六四九	一、一八〇、九九三	二四、二九
一町以上	八八三、七七五	八八二、五五〇	一八、一五
三町以上	二六七、一七三	二二七、三九八	四、六八
五町以上	一、二六、九三三	一、三二、〇三五	二、五一
十町以上	四一、五〇〇	四六、九六二	〇、九七
五十町以上	二、七一九	四、二四九	〇、〇九
合計	四、九、三、八六六	四、八、八、三九	—

比較増減	
2,165,943	0
1,351,062	—
29,778,084	—
5,598,701	—
3,544,291	—
934,919	—
4,165,619	—
4,958,064	—
7,306,394	—
9,843,067	—
660,777	—
2,020,157	—
5,799,809	—
2,127,313	—
60,667,180	—
521,366	—
1,355,470	—
2,063,414	—
6,847,820	—
45,747,670	—
21,093,377	—

昭和四年... 5.33... 127.00... 17.00

昭和四年... 昭和五年... 昭和六年...

收入別	收入目的物	收入金高	支出別	支出目的物	支出金高
田收穫米	一町	一〇、〇三九	食糧費(家族約六人分)	三四五、〇九	
同收穫麦	一、二	六四、三四	被服費(同上)	五一、五四	

收支差引不足 一八一、六三

計	一、四九、八九	計	一、六七、四二
社文費	二九、一八	雇人給料(日雇約六五人)	六五、三〇
兒童教育費		雜費	二七、四七

收入別	收入目的物	收入金高	支出別	支出目的物	支出金高
田木收穫高	一町	一、二二、八〇	食糧費(家族七人分)	五三九、〇五	
田麥收穫高	同上	八一、六五	被服費(同上)	一五七、八四	
烟麥收穫高	〇、六一	八六、三九	住宅費(修繕、薪炭費、石油、電燈等)	一一四、二五	
園藝其他(養蠶、茶、野菜等)		一八五、七八	酒類	七四、五九	
山林收益	〇、六七	一五、二七	農家經營費(肥料、農具等)	二三五、八七	

收支差引殘高 一九四、五四

較增	0
	2,165,943
	1,391,062
	29,778,084
	5,598,701
	3,544,291
	934,919
	4,165,619
	4,958,064
	7,306,394
	9,843,067
	660,777
	7,020,157
	5,799,809
	2,127,313
	60,667,180
	521,366
	1,355,470
	2,053,414
	6,847,520
	48,727,690
	4,093,377

昭和四年... 533... 比價高
 昭和四年... 291... 昭和四年...
 昭和四年... 40... 昭和四年...
 昭和四年... 127.00...
 昭和四年... 12.00...

昭和四年... 昭和四年...
 昭和四年... 昭和四年...
 昭和四年... 昭和四年...

費目	大正元年	大正四年	大正九年
國稅	一八、一八	一七、四七	一九、四二
府縣稅	八、九一	八、五二	二〇、三一
村稅	一三、六四	一五、一二	三三、六一
協費	三、六二	三、六八	七、三二
合計	四四、三五	四四、七九	八四、六六

五、農家一戸當祖稅公費負擔額
 (1) 稍良好ノ農村
 百二十戸ニ就キ調査セル平均ニシテ
 小作料收穫高ハ一石約三十五圓ノ米
 價ヲ以テ換算セリ

收支差引不足 四四、一〇

項目	金額
烟收穫高	〇、三
園藝等收入	一、二五、四八
日雇労働賃約五十六人	五六、二四
住宅費	六六、三四
農業經營費	一、二五、四八
公費及寄附(戸數割及水利費等)	五六、二四
兒童教育費	
社交費	
酒類費	
雇人費	
雜費	
小作料(田約十畝ニ外畑約三、四、三〇)	一、三三、九〇
計	一、三六〇、三四

比較増減	金額
	〇
	2,165,943
	1,351,062
	29,778,084
	5,598,701
	3,544,291
	934,919
	4,165,619
	4,958,054
	7,306,394
	9,843,067
	660,777
	2,020,157
	5,799,809
	2,127,313
	60,667,780
	521,366
	1,355,470
	2,053,414
	6,847,820
	45,728,690
	4,093,877

昭和十一年 533. — 比價表
 昭和十一年 291. — 昭和十一年
 昭和十一年 50. — 昭和十一年
 昭和十一年 127. m.
 昭和十一年 17. m.

昭和十一年
 昭和十一年

昭和十一年
 昭和十一年

大正十一年十一月二十九日

經濟研究會

備考	九年	四年	大正九年	同四年	同四年	同四年	同四年	同四年	同四年
右ハ農商務省カ全国農村中三十ヶ村ニ就テ調査セル統計ノ一部ニシテ	九、九、九、五	五、二、七、二	五、三、四、九	五、一、九、八	四、九、九、九	一、五、六、一	一、五、五、八	一、五、五、二	一、五、五、二

明治二十二年
 田一反歩當
 畑一反歩當

費目	團稅	府縣稅	村稅	協費	組費
大正九年	一、四、八、〇	八、五、八	一、一、九、七	四、五、九	三、九、九、四
大正四年	一、四、四、七、六	八、五、五	一、一、二、九	四、九、九	三、九、五、九
大正九年	一、七、四、四	二、〇、六、九	三、六、九、九	九、七、七	八、四、九、九

較增	0
	2,165,943
	1,351,062
	29,778,084
	5,598,701
	3,544,291
	934,919
	4,165,619
	4,958,064
	7,306,394
	9,843,067
	660,977
	2,020,157
	5,799,869
	2,127,313
	60,667,180
	521,366
	1,355,470
	2,053,414
	6,847,820
	45,742,690
	1,093,377

臨時附加費 533. — 比例高
 臨時附加費 291. — 比例高
 臨時附加費 40. — 比例高
 臨時附加費 382. — 合計 差換 150.000 m
 臨時附加費 40. — 比例高
 臨時附加費 127. m
 臨時附加費 17. m

昨日合計
 昨日合計
 昨日合計

普	公	內	普	公	內	普	公	內
通	債		通	債		通	債	
財	財		財	財		財	財	
源	源		源	源		源	源	

特別會計整理額

一般會計整理額

行政整理額 公債 財源 普通財源 區分調

一六五、八六二、一三一
 九一、〇一四、七二五
 二五六、八七六、八五六
 七七、五六四、八五七
 二七、〇三五、〇〇〇
 一〇四、五九九、八五七
 八八、二九七、二七四
 六三、九七九、七二五
 一五二、二七六、九九九

五

比較增減
0
2,165,943
1,391,062
29,778,084
5,598,701
3,544,291
934,919
4,165,619
4,958,054
7,306,394
9,843,067
660,777
2,020,157
5,799,869
2,127,313
60,667,180
521,366
1,355,470
2,053,414
6,847,120
45,727,690
2,093,377

特別會計整理
 二五、九、一、〇〇〇
 整理
 目録) 3.000.000
 目録) 6.000.000
 目録) 9.000.000

一般會計節減額

行政整理ニ依ル恆久財源額調

經常部
 臨時部
 計

特別會計整理ニ依ル恆久財源ノ收入増加額

專賣局
 印刷局
 合計

五四、六〇二、一九〇圓
 一三、四五八、九七〇
 六八、〇六一、一六〇
 六、三六六、九七三
 五八三、五二九
 六、九五〇、五〇二
 七五、〇一一、六六二

普通部
 內
 合計
 普通部
 內
 合計
 普通部
 內
 合計

六、三六六、九七三
 五八三、五二九
 六、九五〇、五〇二
 七五、〇一一、六六二
 〇四、五五五、八五五
 八八、〇〇〇、二二四
 六三、五五五、二二五
 一五、二二二、六六六

大正十四年度歳出整理額俸給其他區分調

區分	一般會計		特別會計	計
	經常部	臨時部		
俸給	一五、二五二、〇二一	一、三七一、〇一四	一六、六二三、〇三五	二四、六三四、九八三
勅任	二四一、九六一	四〇、八〇〇	二八二、七六一	三八六、二六一
奏任	五、二〇五、六二九	四二八、八二三	五、六三四、四五二	七、一七一、一八四
判任	六、四七九、四四六	八二九、一八一	七、三〇八、六二七	一一、八一〇、三二四
兵卒	一、五二七、〇三一	〇	一、五二七、〇三一	一、五二七、〇三一
特殊	一、七九七、九五四	七二、二一〇	一、八七〇、〇一九	三、七四〇、一八三
給料	六、九六一、一九二	四、一〇二、八六二	一一、〇六四、〇五四	二四、一九三、七八三
旅費	一、四八七、三六二	九三七、七一八	二、四二五、〇八〇	五、七六六、四四六
手當其他給與	二、三六一、三〇九	四六〇、五六七	二、八二一、八七六	四、五二二、三三四
計	二六、〇六一、八八四	六、八七二、一六一	三二、九三四、〇四五	五九、一一七、五二六
其他ノ經費	二八、五四〇、三〇六	九〇、八〇二、六四八	一一九、三四二、九五四	一九七、七五九、三三〇
合計	五四、六〇二、一九〇	九七、六七四、八〇九	一五二、二七六、九九九	二五六、八七六、八五六

備考

俸給中特殊トハ俸給豫算ニ計上シタル在勤加俸、休職俸給及停職俸給等本俸以外ノモノヲ云フ但シ年功加俸ハ本俸トス

50 24,571 人 整理
5-2.0m. m. 19 已整理

行政及軍備整理ニ依ル退職者給與額調

區分	整理人員	退職者給與額調			備考
		現職金	公債及手當	計	
大正十四年度分	二五、一九二	二、四一三、七二四	三〇、六二〇、〇〇九	三三、〇三二、七二三	
一般會計	一三、八四二	一、七六六、五七四	二七、九四八、四八四	二九、七一五、〇五八	
官	一一、三五〇	六四六、一四〇	二、六七一、五二五	三、三二七、六六五	
其	一四、三六一	七九一、六四四	八、五七二、六九四	九、三六四、三三八	
特別會計	六、二五五	一一一、六七〇	六、五三九、二八四	六、六六〇、九五四	
官	八、一〇六	六六九、九七四	二、〇三三、四一〇	二、七〇三、三八四	
其	三九、五五三	三、二〇四、三五八	三九、一九二、七〇三	四二、三九七、〇六一	
計					
大正十五年度分					
一般會計	一八三	三九、七二八	二六六、六三七	三〇六、三六五	
陸軍省	六三	二四、二一二	二三六、七五七	二六〇、九六九	
官	一一〇	一五、五一六	二九、八八〇	四五、三九六	
其	二四二	五五、一〇〇	四〇八、二七五	四六三、三七五	
文部省	四四	二一、七三〇	二二〇、一五五	二四一、八四五	
官					

區分	整理人員	現職		公債及手當		備考
		金	賜金	債	計	
計	一九八	三三、三七〇	一八八、一六〇	二二一、五三〇	七六九、七四〇	
其他	四二五	九四、八二八	六七四、九一二			
大正十六年度分						
一般會計	六四	二〇、四四八	一七五、七三二	一九六、一八〇		
陸軍省	四三	一七、六三七	一七〇、三二五	一八七、九六二		
官吏	二一	二、八一	五、四〇七	八、二一八		
其他	五一	九、九六四	六三、五九六	七三、五六〇		
文部省	二	六七九	六、六八一	七、三六〇		
官吏	四九	九、二八五	五六、九一五	六六、二〇〇		
其他	一一五	三〇、四一二	二二九、三二八	二六九、七四〇		
合計						
官吏計	二〇、二四九	一、九五二、五〇二	三五、一二一、六四六	三七、〇七四、一四八		
其他	一九、八四四	一、三七七、〇九六	四、九八五、二九七	六、三六二、三九三		
合計	四〇、〇九三	三、三二九、五九八	四〇、一〇六、九四三	四三、四三六、五四一		

公債百圓ニ付八三圓ニテ換算スルトキハ四八三二一、六一九圓トナル

備考

一、右ノ外帝國鐵道特別會計ニ於テ退職者ニ給與スヘキ金額七、二〇六、五八〇圓アリ
 二、右ノ外帝國鐵道特別會計ニ於テ退職者ニ給與スヘキ金額七、二〇六、五八〇圓アリ
 三、右表ニ掲ケタル退職賜金及手當ノ外退職ニ際シ豫算ノ範圍内ヲ以テ賞與等ノ給與ヲ支給スル額五、一三二、〇〇八圓アリ

大正十四年度一般會計歲出整理額調

所管別	節減額		繰延額		合計	
	普通費	繼續費	普通費	繼續費	普通費	繼續費
外務省	三、一三、八〇五	〇	〇	〇	三、一三、八〇五	〇
內務省	二、七四〇、五九八	〇	〇	〇	二、七四〇、五九八	〇
大藏省	三、〇一七、〇〇五	〇	〇	〇	三、〇一七、〇〇五	〇
陸軍省	一九、四四二、九七四	〇	〇	〇	一九、四四二、九七四	〇
海軍省	九、四九七、四六六	〇	〇	〇	九、四九七、四六六	〇
司法部	七、一〇〇、〇〇〇	〇	〇	〇	七、一〇〇、〇〇〇	〇
文部省	二、六二九、二二三	〇	〇	〇	二、六二九、二二三	〇
農林省	四、〇三七、七二〇	〇	〇	〇	四、〇三七、七二〇	〇
農工省	五、八八七、一五	〇	〇	〇	五、八八七、一五	〇
商工省	八、八三三、七八四	〇	〇	〇	八、八三三、七八四	〇
逓信省	五、四六〇、二一九〇	〇	〇	〇	五、四六〇、二一九〇	〇
臨時部	八〇四、一四七	〇	〇	〇	八〇四、一四七	〇
外務省	八〇四、一四七	〇	〇	〇	八〇四、一四七	〇
內務省	二、五二三、六〇六	四、二〇四	〇	〇	二、五二七、八一〇	〇
大藏省	二、八五一、七八七	五、五五〇	〇	〇	二、八五七、三三七	〇
合計	二、八五一、七八七	五、五五〇	四、八五〇、〇〇〇	二、五〇五、一六一	二、八五一、七八七	九、九六二、七八七

所管別	節減		額計	線延		額計	合計	
	普通費	繼續費		普通費	繼續費		普通費	繼續費
陸軍省	八二,三八五	三三,〇〇〇	一,一四三,三八五	〇	一,二〇〇,四一八	一,二〇〇,四一八	八二,三八五	一,二,三四三,八〇三
海軍省	五六〇,六〇〇	〇	五六〇,六〇〇	〇	七,八九五,〇〇〇	七,八九五,〇〇〇	五六〇,六〇〇	八,四五五,六〇〇
司法部	一五三,〇七二	〇	一五三,〇七二	〇	一〇,六五,九六四	一〇,六五,九六四	一五三,〇七二	一,二,二九,〇三六
文部省	二九五,六三九	〇	二九五,六三九	〇	九,八三六,五五二	九,八三六,五五二	二九五,六三九	一〇,七四四,六九一
農林省	四,三七六,四九二	四一,二三〇	四,四一七,七二二	二,三三三,五〇四	一,五八,四六七	二,四八八,九七一	六,七〇八,九九六	六,九〇六,六九三
商工省	四八八,五二九	〇	四八八,五二九	一,三三三,三三四	一,八五一,八〇八	一,九八五,一四二	六二一,八六三	二,四七三,六七一
遞信省	二一〇,七二九	〇	二一〇,七二九	〇	九,二七二,八九四	九,二七二,八九四	二一〇,七二九	九,四八三,六二三
合計	一三,〇七五,九八六	三三,〇七五,九八六	一三,四四八,九七〇	七,九二八,三三八	七六,二八七,五〇一	八四,二一五,八三九	二一,〇〇四,三二四	九七,六七四,八〇九
合計	六七,六七八,一七六	三三,二,九八四	六八,〇六一,一六〇	七,九二八,三三八	七六,二八七,五〇一	八四,二一五,八三九	七五,六〇六,五二四	一五二,二七六,九九九

大正十四年度各特別會計歲出整理額調

部局別	節減		額計	線延		額計	合計	
	普通費	繼續費		普通費	繼續費		普通費	繼續費
對支文化事業	二六,五三三	〇	二六,五三三	〇	〇	〇	二六,五三三	二六,五三三
造幣局	六七,四三二	〇	六七,四三二	〇	〇	〇	六七,四三二	六七,四三二
印刷局	五八三,五二九	〇	五八三,五二九	〇	〇	〇	五八三,五二九	五八三,五二九
專賣局	六,三六六,九七三	〇	六,三六六,九七三	〇	〇	〇	六,三六六,九七三	六,三六六,九七三
賠償金	一三,九一五	〇	一三,九一五	〇	〇	〇	一三,九一五	一三,九一五
朝鮮總督府	一四,九六六,〇三三	一,四九五,五〇〇	一六,四六一,五三三	〇	九,四三九,六四五	一四,九六六,〇三三	一〇,九三五,一四五	二五,九〇一,一七八
臺灣總督府	五八〇,五五一八	一,九二九,〇一七	七,七三四,五三三	一,三六八,八七五	四,三〇四,七八〇	七,一七四,三九三	四,八六四,九三三	一二,〇三九,三二五
關東廳	一九一,四七三	一八三,四五七	二,一〇二,九三〇	〇	四一五,五二三	一九一,四七三	五九八,九八〇	二,五一八,四五三
樺太廳	一,六一,一一一	四〇,九九〇	二,〇一,一〇一	〇	五九四,八四〇	一,六一,一一一	一,〇〇四,七四〇	二,六一五,八五一
南洋廳	八四六,五九四	〇	八四六,五九四	〇	〇	八四六,五九四	〇	八四六,五九四
陸軍造兵廠	二,六七三,五五五	〇	二,六七三,五五五	〇	〇	〇	二,六七三,五五五	二,六七三,五五五
千住製絨所	一,八八七,七二九	〇	一,八八七,七二九	〇	〇	〇	一,八八七,七二九	一,八八七,七二九
海軍工廠資金	六〇,五〇八	〇	六〇,五〇八	〇	〇	〇	六〇,五〇八	六〇,五〇八
海軍火藥廠	三五六,七一九	〇	三五六,七一九	〇	〇	〇	三五六,七一九	三五六,七一九
海軍燃料廠	一,三八三,〇五五	〇	一,三八三,〇五五	〇	〇	〇	一,三八三,〇五五	一,三八三,〇五五
製鐵所	六〇,九八八,八八三	〇	六〇,九八八,八八三	〇	〇	〇	六〇,九八八,八八三	六〇,九八八,八八三

部局別	節減額		繰延額		合計	
	普通費	繼續費	普通費	繼續費	普通費	繼續費
米穀需給調節	四〇、四五五	〇	〇	〇	四〇、四五五	〇
簡易生命保險	四二七、三二七	〇	〇	〇	四二七、三二七	〇
帝國鐵道	二二、一六八、一八二	〇	二七、〇三五、〇〇〇	二七、〇三五、〇〇〇	二二、一六八、一八二	三九、二〇三、一八二
資本勘定	〇	〇	二七、〇三五、〇〇〇	二七、〇三五、〇〇〇	〇	二七、〇三五、〇〇〇
用品勘定	一六四、七三一	〇	〇	〇	一六四、七三一	一六四、七三一
收益勘定	二一、〇〇三、四五二	〇	〇	〇	二一、〇〇三、四五二	二一、〇〇三、四五二
合計	五七、九〇七、五〇四	四、〇一七、八七四	一、三六八、八七五	四〇、四二〇、九一三	六二、一五五、〇〇〇	一〇三、七一一、一六六
外						
帝國大學	一五五、四四〇	〇	〇	六二、一五〇	一五五、四四〇	七六、七九四
東京帝國大學	五七、五九〇	〇	〇	二〇、二五〇	五七、五九〇	二六、〇〇九
京都帝國大學	三一、八九二	〇	〇	五〇、〇〇〇	三一、八九二	八一、八九二
東北帝國大學	二一、九五六	〇	〇	一〇、〇〇〇	二一、九五六	一三、一九五六
九州帝國大學	一八、四六三	〇	〇	二五、〇〇〇	一八、四六三	二六、八四六
北海道帝國大學	二五、五三九	〇	〇	〇	二五、五三九	二五、五三九
官立大學	四三、二八〇	〇	〇	〇	四三、二八〇	四三、二八〇
學校及圖書館	七三、四七一	〇	〇	〇	七三、四七一	七三、四七一
總計	五八、一七九、六九五	四、〇一七、八七四	一、三六八、八七五	四一、〇三三、四一三	六二、一五五、〇〇〇	一〇四、五九九、八五七

大正十四年度以降一般會計所屬既定繼續費年割表

(△印減)

區分	年度	合計						
		既定額	管移替減額	引更訂額	繰延増減額	節減額	十五年度経費分	廢止額
總額	大正十四年度	五五七、五七五	〇	五五七、五七五	〇	〇	〇	〇
	大正十五年	三三〇、九四九	△七、六五三	三三〇、四三二	△一、九八八	△一、六〇〇	△一、六〇〇	△一、六〇〇
	大正十六年	三〇五、三九三	△四、八五二	三〇五、四〇七	△一、九八八	△一、四四三	△一、四四三	△一、四四三
	大正十七年	四六、二四四	△一、三三九	四五、九〇五	△一、七九七	△七、二七九	△六、九三〇	△六、九三〇
	大正十八年	三五、三三三	△八、三三六	三五、八九一	△一、九八八	△一、五三七	△一、五三七	△一、五三七
	大正十九年	三〇、三三九	△七、八九九	三〇、二四九	△一、九八八	△一、〇七九	△一、〇七九	△一、〇七九
	大正二十年	一九、六七八	△六、三五九	一九、三一九	△一、九八八	△一、〇七九	△一、〇七九	△一、〇七九
	大正二十一年	一四、六七八	△五、九七九	一四、七〇七	△一、九八八	△一、〇七九	△一、〇七九	△一、〇七九
	大正二十二年	一〇、〇〇〇	△五、〇〇〇	一〇、〇〇〇	△一、九八八	△一、〇七九	△一、〇七九	△一、〇七九
	大正二十三年	五、〇〇〇	△四、〇〇〇	五、〇〇〇	△一、九八八	△一、〇七九	△一、〇七九	△一、〇七九
	大正二十四年	〇	△三、〇〇〇	〇	△一、九八八	△一、〇七九	△一、〇七九	△一、〇七九
	大正二十五年	〇	△二、〇〇〇	〇	△一、九八八	△一、〇七九	△一、〇七九	△一、〇七九
	大正二十六年	〇	△一、〇〇〇	〇	△一、九八八	△一、〇七九	△一、〇七九	△一、〇七九
	大正二十七年	〇	△〇、〇〇〇	〇	△一、九八八	△一、〇七九	△一、〇七九	△一、〇七九

大正十四年度以降一般會計所屬既定繼續費年割表

區分	年度	既定額	管移替減額	引更訂額	繰延増減額	節減額	十五年度経費分	廢止額
總額	大正十四年度	五五七、五七五	〇	五五七、五七五	〇	〇	〇	〇
	大正十五年	三三〇、九四九	△七、六五三	三三〇、四三二	△一、九八八	△一、六〇〇	△一、六〇〇	△一、六〇〇
	大正十六年	三〇五、三九三	△四、八五二	三〇五、四〇七	△一、九八八	△一、四四三	△一、四四三	△一、四四三
	大正十七年	四六、二四四	△一、三三九	四五、九〇五	△一、七九七	△七、二七九	△六、九三〇	△六、九三〇
	大正十八年	三五、三三三	△八、三三六	三五、八九一	△一、九八八	△一、五三七	△一、五三七	△一、五三七
	大正十九年	三〇、三三九	△七、八九九	三〇、二四九	△一、九八八	△一、〇七九	△一、〇七九	△一、〇七九
	大正二十年	一九、六七八	△六、三五九	一九、三一九	△一、九八八	△一、〇七九	△一、〇七九	△一、〇七九
	大正二十一年	一四、六七八	△五、九七九	一四、七〇七	△一、九八八	△一、〇七九	△一、〇七九	△一、〇七九
	大正二十二年	一〇、〇〇〇	△五、〇〇〇	一〇、〇〇〇	△一、九八八	△一、〇七九	△一、〇七九	△一、〇七九
	大正二十三年	五、〇〇〇	△四、〇〇〇	五、〇〇〇	△一、九八八	△一、〇七九	△一、〇七九	△一、〇七九
	大正二十四年	〇	△三、〇〇〇	〇	△一、九八八	△一、〇七九	△一、〇七九	△一、〇七九
	大正二十五年	〇	△二、〇〇〇	〇	△一、九八八	△一、〇七九	△一、〇七九	△一、〇七九
	大正二十六年	〇	△一、〇〇〇	〇	△一、九八八	△一、〇七九	△一、〇七九	△一、〇七九
	大正二十七年	〇	△〇、〇〇〇	〇	△一、九八八	△一、〇七九	△一、〇七九	△一、〇七九

十四年度
 114.
 21.
 15.
 23.
 13.
 同定
 院
 監
 監

區分	年度		總額	大正十四年度以前支出額	大正十四年度以降支出額	大正十四年度	大正十五年	大正十六年	大正十七年
	普通費組	替減額							
追加額	1,040,610	3,386,620	4,427,230	0	3,386,620	3,529,500	3,220,000	2,833,000	3,130,000
改定額	5,788,810	3,543,210	9,332,020	3,543,210	3,543,210	3,985,070	3,985,070	3,499,570	2,879,440

大正十四年度歲出豫算一般會計特別會計通計調

一 般 會 計	大正十四年度總豫算		前年度實行豫算		差 引 增 減
	經 常 部	臨 時 部	經 常 部	臨 時 部	
一、五二四、三九九、〇二八	一、〇一一、三八三、七九六	五二三、〇一五、二三二	一、六一五、四〇六、二五一	一、〇五五、三六八、〇三〇	△ 九一、〇〇七、二二三
二、九七四、三二〇、二三六	二、九〇六、五六五、三八二	六七、七五四、八五四	三、三六九、〇五七、八〇九	三、二九八、二〇九、八七八	△ 四七、〇二二、九八九
三、九〇六、五六五、三八二	六七、七五四、八五四	四、四九八、七一九、二六四	三、二九八、二〇九、八七八	七〇、八四七、九三一	△ 三九一、六四四、四九六
四、四九八、七一九、二六四	六七、七五四、八五四	四、四九八、七一九、二六四	四、九八四、四六四、〇六〇	七〇、八四七、九三一	△ 四八五、七四四、七九六

備考 特別會計ニシテ經常部臨時部ノ區分ナキモノニ在リテハ假ニ經常部ニ通算セリ

C
 M
 I
 E
 C
 O
 F
 C
 I
 M

府縣郡
稅收
地租
營業稅
所得稅
釐稅
豪華營業稅
取引所官稅
江敷割及同下
家屋稅
道府縣官稅
租種稅
其他諸稅
天役租品稅
市町村分賦
稅外收
財產收
使用料及手續
補助及交付
募附金
公債
前年度繰越
其他收入
歲入總

以上計算の保險料全年三百圓並に所得中の保險料を引去ると

大正 年 月 日

3 年上十中一年の場合

$$x(1+0.06)^4 - 1,000x(1.06)^4 + 1,06^3 + \dots + 1.06 + 1) = 0$$

$$x = \frac{22952.9258156}{2.14677} = 10,700 \text{ 円年}$$

$$10,700 \times \frac{3}{100} = 321 \text{ 円}$$

保險契約高 一万七百元
 掛金年 三百二十一円

保險契約高 七千八百円

掛金年 二百三十四円

$$x = \frac{13140.9946d}{1.6d94d} = 7,800 \text{ 円年}$$

$$7,800 \times \frac{3}{100} = 234 \text{ 円}$$

昭和四年の各地方自治体之統計

大正 年 月 日

例として

27-67

1. 区上十中一年の場合

保險料 300 円

掛金年 321 円

所得 7,800 円

7,800 × 100 = 780,000

x = $\frac{193,300,000}{780,000} = 247,820 \text{ 円年}$

x(1+0.06)^4 - 2,000x(1.06)^4 + 1.06^3 + \dots + 1.06 + 1) = 0

2. 区上十中一年の場合

保險料 300 円

掛金年 321 円

所得 7,800 円

7,800 × 100 = 780,000

x = $\frac{193,300,000}{780,000} = 247,820 \text{ 円年}$

x(1+0.06)^4 - 2,000x(1.06)^4 + 1.06^3 + \dots + 1.06 + 1) = 0

青森郡

税收入

地租

官業税

所得税

釀酒税

烟草官業税

取引所官業税

江敷割及同附

家屋税

道府縣官業税

租種税

其他諸税

天役規品換算

市町村分賦金

小計

税外收入

財產收入

使用料及手数料

補助及交付金

公債金

前年度繰越

其他收入

小計

歳入總計

No.

$$x = \frac{150,000}{6} = 25,000$$

$$25,000 \times \frac{3}{100} = 750$$

即4年掛金 750円

松屋製

$$3. \frac{1}{2} \quad 1,500円 \times 2 \times \frac{1}{2}$$

$$13,333' \times \frac{3}{100} = 399'$$

即4年掛金 400円

$$x = \frac{20,000}{6} = 3,333'$$

2 生計費, 最良ヲ 100円 × 2 = 200円

100 : 6 = x : 100

$$x = \frac{100,000}{6} = 16,666'$$

$$16,666' \times \frac{3}{100} = 499'$$

即4年掛金 500円

$$1,000 : 6 = x : 100$$

1 生計費, 最良ヲ 1,000円 × 2 = 2,000円 (各名ノ利廻中心)
 保障掛金 3名中心

$$2,000 \times \frac{100}{100} = 2,000円$$

$$100,000 \times \frac{100}{100} = 100,000円$$

100,000 + 2,000 = 102,000円

102,000 × 100 = 10,200,000

10,200,000 ÷ 100 = 102,000円

昭和四年四月廿一日

大正 年 月 日

列子 38

27-63

入算

家屋税 2,745,294
地区家屋税附加税 12,945,026

第一点及第二点

時價ノ算定ニ如何ニ標準ニ求ムヘキヤハ、
論ノ存スル處ナレバ、時價率ガ時勢ノ変化ニ順應
シテ景氣ノ好否、年々、豊凶、米價ノ騰落等ヲ
多少ニ斟酌シ、拍ル點ニ於テ、時代ト没交渉ナク
以テ定地價率ニ優ル下、富キハ素ヲ以テ示リ
唯地價ノ修訂ハ、毎五年納稅義務者ノ申告
基キ、富査委員、評價ニ依リ、修訂スル方法ハ

地租

地價

明31年 田畑地價修正 (現行)
43年 宅地地價 " (地主ノ取得ノ債貨價格ノ十倍
ノ地價トス) (現行)

有租地 { Ⅰ. 田畑、宅地、塩田、針鼻地
Ⅱ. 池沼、山林、牧場、原野、雜種地

租率 宅地 — 地價, $\frac{2.5}{100}$
田畑 — $\frac{4.5}{100}$
其他 — $\frac{5.5}{100}$

免租地 果有林、中耕地、公共団地、公用ニ供スル土地、
貧乏地、

全租額收入ノ概況

所得稅、酒稅、地租ノ順序、
昭和8年 73,754,000円
昭和4年 73,602,331円
合計 147,356,331円
対比 26.23%

昭和8年時價

対比 26.23%

昭和四年地方財政概況

大正十年度地方財政 歳入豫算

府縣郡.市區町村歳入	家屋税	府縣家屋税	7,745,294
税收入		市區家屋税附加税	12,945,026
地租			
營業税			

第一點 及 第二點

時價ノ算定ヲ如何ニ標準ニ求ムヘキヤハ頗ル議
論ノ存スル處ナレバ 時價率ガ時勢ノ變化ニ順應
シテ景氣ノ好否、年々豊凶、米價ノ騰落等ヲ
多少ニ斟酌シ得ル點ニ於テ 時代ト没交渉ナク現
行法定地價率ニ優シク、多クハ素手取ルナリ
唯地價ノ修正ハ毎五年前納稅義務者ノ申告
ニ基キ 富査委員、評價ニ依リ 修正スル方法ハ
實際ニ於テ 現行法定地價測定ノ場合ト全標、
困難ヲ伴ハサルヲ怖ルベク、殊ニ地價修正ノ爲メ、
費用ガ田畑ノニテモ 一回四五千圓ノ額トイフ事
ニ鑑ミ 果シテ遂行ノ可能性アリヤク疑フ

第三點

現行ノ地租ガ 細民ノ苦シムルト云ヒキハ 此稅ノ爲メ、
土地ノ年率一三六九九、六一四ニ及ビ其 納稅義務者
一〇、五四一、三〇八ニ達シ 殊ニ 年率滿、義務者四割
以上ト云ハルノ事實(吾國一週)ニ徴スルニ 頗ル
此課稅免除新設ハ、併為稅ニ於テ 免稅點存
置、額率ニ 準 應シ 極テ 便宜ト 適 宜 方法ナリ

第四點

山林 2,090,000
原野 牧場 1,421,000

71878
27-67

大正十年度地方財政 歳入豫算

府縣郡. 市區町村歳入

稅收入

家屋稅

府縣家屋稅 2,745,294
市區家屋稅附加稅 12,945,026

地租 附加

官署稅

所得稅

鑛業稅

鹽業官署稅

取引所官署稅

戶數割及同附加稅

家屋稅

道府縣官署稅

租種稅

其他諸稅

天役規品豫算款

市町村分賦款

小計

稅外收入

財產收入

使用料及手数料

補助及交附金

籌附金

公債金

前年度繰越金

其他收入

小計

歳入總計

大正9年 地租收入款 — 43,949,348 圓

白家州	田	45,439,237	61
	畑	9,972,467	14
	宅地	16,957,357	23
	其他	1,780,293	2

稅率

一般

宅地 — 地價, 2.5%
畑畑 — , 4.5%
其他土地 — " 5.5%

北海道

宅地 — 2.5%
畑畑 — 3.2%
其他土地 — 4%

大正9年 租種地 地價別 (圓)

田	2,929,000	[田畑兩者, 天役規品豫算款 35,000,000 兩存地價, 大正9年 地價]
畑	2,557,000	
宅地	395,000	
増田, 新泉地, 池泥, 雜種	85,000	
山林	8,090,000	
原野 牧場	1,421,000	

昭和十年度地方財政豫算

列子 78

時價ノ算定ニシテ客觀的ニ公平ニテ之ヲ估メテハ
凡テ有租地ニ日一率ヲ課シテ差支ナシ(改稅)
殊々現在大都會ノ宅地ニ數至ルニ富者ノ空地
ニシテ畑山林等ノ地目ニ編入セラレタルモノニ就テハ
連ニ公平ニテ價ヲ算定シ或ハ進テ之ニ團稅ノ
性質ヲ有ル高率ノ地租又ハ純然タル有租稅者ヲ
課シ以テ團稅ノ防止ヲ計ルヘキト信ス。

大正十年度地方財政 歲入豫算

府縣郡、市區町村歲入
稅收

家屋稅
府縣家屋稅 2745.294
市區家屋稅附加稅 12945.026

地租	附加
營業稅	"
所得稅	"
釐金稅	"
賣藥營業稅	"
取引所官稅	"
江敷割及同附加	
家屋稅	"
道府縣營業稅	"
租種稅	"
其他諸稅	
天役規正豫算款	
市町村分賦款	
小計	
稅外收入	
財產收入	
使用料及手数料	
補助及交付金	
寄附金	
公債金	
前年度繰越金	
其他收入	
小計	
歲入總計	

地租與營業稅

第2點、
 1. 可能性の証明 if possible 及び 勿論 營業稅
 2. 可能性の証明 if possible 及び 勿論 營業稅
 3. 可能性の証明 if possible 及び 勿論 營業稅

1.2. 可能性の証明 if possible 及び 勿論 營業稅

昭和十年度地方財政豫算

地租一筆毎 = 地籍の附記及び測定
 各地片の土地状況 = 江戸村、合村、分村、其の他、
 中村、一、一村、模範村、選出、其、模範村、
 各級 = 1/5 其各級、凡、土地、收穫、精査
 各級、凡、土地、收穫、精査
 石代 = 20 金録 = 採集、種子肥料 (總收率 15%)
 租 (地價 4%) 一定割合、控除、
 見做 (但、控除物が少、
 中、
 1/5、
 20, 22, 32.

地價、地價、
 10倍、原則、
 18倍、
 7倍、

27-67

Public Finance of Great Britain. (In thousands of pounds)

稅時利借稅 5,086,574

總額 - 對 租 稅 新合				租 稅 增 加 新 合		歲 入 增 加 新 合		
算	明 治 四 十 二 年 度 決 算		大 正 十 年 度 現 計		升 六 年 度 比 四 十 二 年 度 增 加 率	四 十 二 年 度 比 大 正 十 年 度 增 加 率	升 六 年 度 比 四 十 二 年 度 增 加 率	四 十 二 年 度 比 大 正 十 年 度 增 加 率
新 合	租 稅 款	歲 入 總 額	新 合	租 稅 款	升 六 年 度 比 四 十 二 年 度 增 加 率	四 十 二 年 度 比 大 正 十 年 度 增 加 率	升 六 年 度 比 四 十 二 年 度 增 加 率	四 十 二 年 度 比 大 正 十 年 度 增 加 率
大 前 一 分	58,449,382 323,407,075	677,546,278	大 前 一 分 4 割 八 分 5,086,574 785,851,738	266,709,763	五 四 46 四 十 六 割	二 四 三 五	二 八 割	三 一 割
	附 印 紙 收 入 30,746,190		附 印 紙 收 入 124,289,687					

割 合 及 增 加 率			
決 算	四 十 二 年 度 決 算 (二 十 二 年 度 比 比)	大 正 十 年 度 現 計 (四 十 二 年 度 比 比)	
	156,041,734 58,449,382 167,365,341	5,086,574 785,851,738 790,938,312	24 割 半 23 割 半
	41	42	
	59	58	

富 總 款	租 稅	新 合
870,063,000	70,004,763	185
5,536,519,000	321,856,457	七 分 五 厘
32,542,697,000	915,227,997	二 分 一 厘

直 接 比 較			
四 十 二 年	增 加 割 合	大 正 十 年	增 加 割 合
1,114,227,000		14,700,021,000	
478,943,000		268,562,600	
945,287,000		3,026,284,000	
669,755,000		1,817,574,000	
831,894,000		4,270,063,000	
1,340,653,000		5,104,860,000	
255,660,000		938,269,000	
5,536,519,000	63 割 半	32,542,697,000	58 割 半

直 接 內 訖 (十 年)	
兌換券	1,520,570,000
小 額 紙 幣	216,500,000
銀 貨	30,000,000
白 銅	32,683,000
銅 貨	17,871,000
計	1,817,574,000

戰時利得稅 5,086,574

歲入總額 - 對租稅, 割合						租稅增加割合		歲入增加割合		
明治廿六年年度決算			明治四十二年年度決算			大正十年年度現計			廿六年比四十二年增加率	四十二年比大正十年增加率
租稅額	歲入總額	割合	租稅額	歲入總額	割合	租稅額	歲入總額	割合	廿六年比四十二年增加率	四十二年比大正十年增加率
70,004,760	113,981,636	大割五分	323,407,075	677,546,278	四割八分	5,086,574	266,709,763	三割八分	五割四分	二割四分
			再賣和賣金 58,448,382			785,851,738			二割四分	三割
			附印紙收入 30,746,190			124,289,687				

種別	間接, 直接兩稅, 割合及增加率		
	廿六年年度決算	四十二年年度決算(二+六年度)	大正十年年度現計(四+九年度)
直接稅	43,623,230	156,041,734	383,859,005
間接稅	26,381,529	167,365,341	401,992,733
割合	62	41	42
增加率	38	59	58

富, 總額	租稅	割合
870,063,000	70,004,760	八分
5,536,519,000	321,856,457	七分強
32,542,697,000	915,227,997	二分八厘

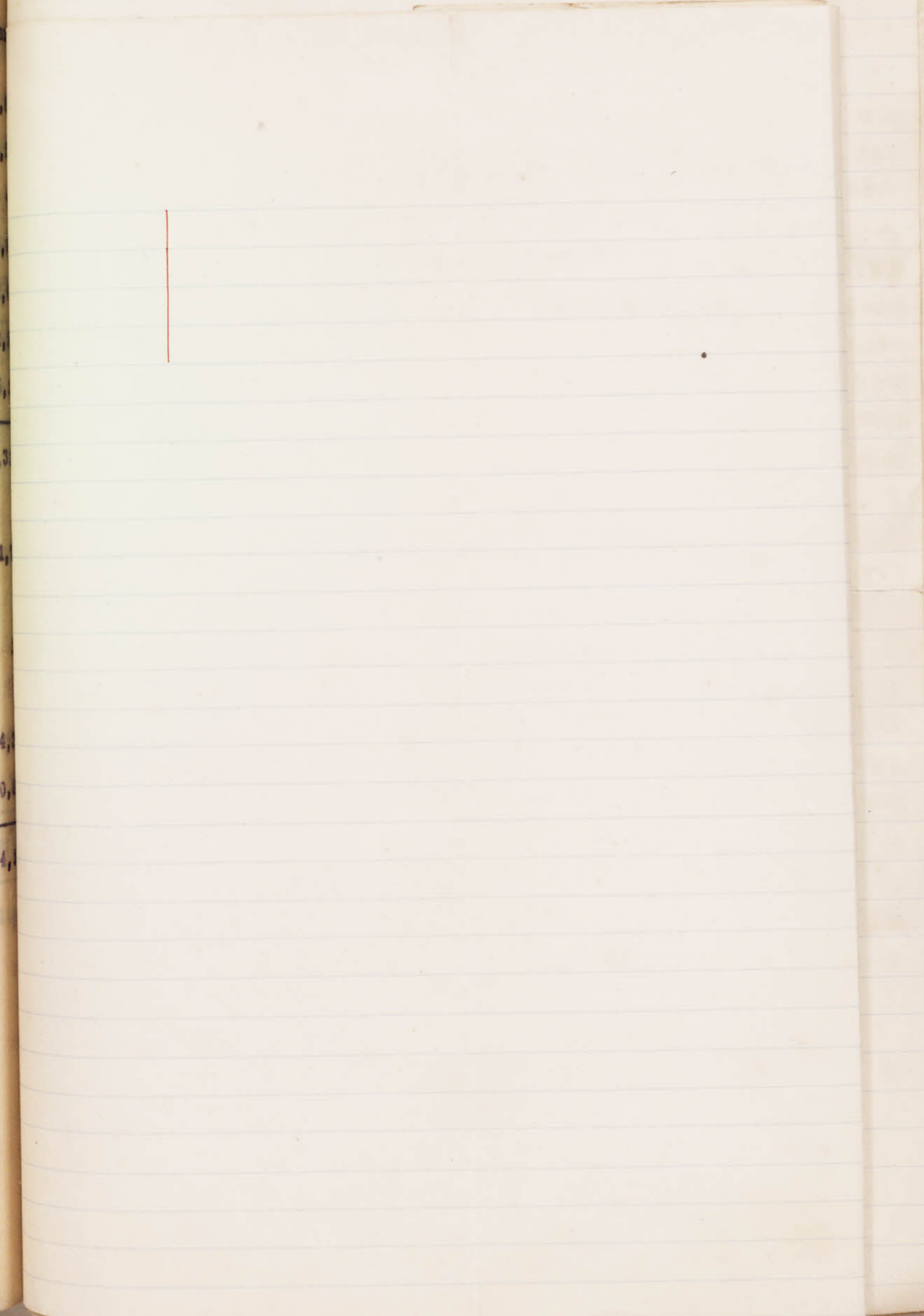
富, 種類比較	明治廿六年		增加割合	大正十年		增加割合
	明治廿六年	四十二年		大正十年	增加割合	
倉庫貸付金	148,853,000	114,227,000		14,700,021,000		
銀行貸付金	101,409,000	478,943,000		2,685,626,000		
貿易款	177,970,000	945,387,000		3,026,284,000		
紙幣及貨幣流通	238,498,000	669,755,000		1,817,574,000		
人民所得款	91,313,000	831,894,000		4,270,063,000		
銀行預金	59,147,000	1,340,653,000		5,104,860,000		
郵便貯金	53,373,000	2,556,660,000		938,269,000		
	870,063,000	5,536,519,000	63割強	32,542,697,000	58割強	

富, 種類	直接內訳(十年)
兌換券	1,520,570,000
小紙幣	216,500,000
紙幣	30,000,000
白銅	32,638,000
銅貨	17,871,000
計	1,817,574,000

Public Finance of Great Britain.

Revenue. (In thousands of pounds)

	1921-1922 (actual revenue)	1922-1923 (estimate)	Differ
Customs.....	150,052	112,250	- 17,802
Excise.....	194,291	160,750	- 33,541
Motor-vehicle duties.....	11,096	10,600	- 496
Income Tax with super tax.....	398,887	329,000	- 69,887
Excess profits duty.....	30,452	27,800	- 2,652
Corporation profits duty.....	17,516	19,750	+ 2,234
Other inland revenue.....	74,416	69,250	- 5,166
<hr/>			
Total tax revenue.....	856,713	729,400	- 127,313
Post Office.....	56,400	54,625	- 1,775
Crown Lands.....	820	750	- 70
Interest on sundry loans.....	13,807	14,000	+ 193
Miscellaneous			
Ordinary.....	26,334	22,000	- 4,334
Special.....	170,806	90,000	- 80,806
<hr/>			
Total Revenue.....	1,124,884	910,775	- 214,109



Expenditure. (In thousands of pounds.)

	1921-1922 (actual expenditure)	1922-1923 (estimate)	
Debt services.....	332,294	335,000	+ 2,706
Road fund.....	10,795	10,000	- 795
Local taxation payments.....	11,172	9,788	- 1,384
Northern Irish treasury.....	1,104	2,500	+ 1,396
Land settlement	2,647	3,500	+ 853
Other consolidated fund.....	1,868	2,650	+ 782
Total consolidated fund.....	350,880	363,438	+ 12,558
Supply services			
Army - - - - -	95,110	62,300	- 32,810
Navy - - - - -	80,770	64,884	- 15,886
Air Force - - - - -	13,560	10,895	- 2,665
Civil services - - - - -	449,700	317,895	- 131,805
Customs & other revenue departments.	14,190	12,275	- 1,915
Post Office - - - - -	65,977	53,822	- 12,155
Supplementary estimate - - - - -		25,000	+ 25,000
Total supply services	719,307	546,631	- 172,676
Total Expenditure	1,079,187	910,069	- 169,118

Public Finance of Great Britain

	1921-1922 (actual revenue)	1922-1923 (estimate)
Customs.....	120,028	120,028
Excise.....	124,281	124,281
Motor-vehicle duties.....	11,028	11,028
Income tax with super tax.....	238,827	238,827
Excise profits duty.....	30,422	30,422
Corporation profits duty.....	17,210	17,210
Other inland revenues.....	74,410	74,410
Total tax revenue.....	525,206	525,206
Post Office.....	58,400	58,400
Green Lanes.....	820	820
Interest on sundry loans.....	12,807	12,807
Miscellaneous.....		
Ordinary.....	28,234	28,234
Special.....	170,000	170,000
Total Revenue.....	785,467	785,467

The Revenue of Great Britain from Income Tax (with super-tax) from Excess Profits Duty. (In millions of pounds,)

Year ending March 31st.	Income Tax (with super-tax)	%	Excess Profits Duty	%	Total Revenue
1913	45	24			
1914	47	24			
1915	69	30			
1916	128	38			
1917	205	36	140	24	
1918	240	34	220	51	
1919	291	33	285	32	
1920	359	27	290	22	1,348
1921	394	28	219	15	1,423
1922	399	35	30	3	1,120
1923 (estimate)	329	36	28	3	916

Expenditure (in thousands of pounds) 1921-1922 (actual expenditure) 1921-1922 (estimate)

10,000	10,725	
2,488	11,172	
1,500	1,104	
2,500	2,647	
2,650	1,268	
<hr/>		
262,428	262,880	
<hr/>		
22,200	22,110	
282,828	280,770	
10,825	13,260	
217,923	247,700	
12,272	14,190	
22,822	22,277	
22,000		
<hr/>		
266,221	272,207	
<hr/>		
210,022	1,078,127	

The Geddes Report.

Reduction of the public expenditure, which the Geddes Commission recommended to the British Government in their three reports:-

First Report-

Navy.....	£ 21,000,000
Army.....	20,000,000
Air Force.....	5,500,000
Education.....	18,000,000
Health.....	2,500,000
War Pensions.....	3,300,000

70,300,000

Further Adjustment on First Report

1,171,870

Second Report-

Trade group.....	£ 538,000
Export Credit.....	500,000
Agricultural group.....	855,000
Police & Prisons.....	1,595,000
General (24 votes).....	102,000

3,590,000

The Committee states that the reduction of the classes and also the sixth class in a large extent is impossible means that, of the above total expenditure, 737 million pounds, almost two-thirds are irreducible. Of the remaining 309 million the Committee estimates that almost one-fifth can be saved.

The Revenue of Great Britain from Income Tax (with super-
from Excess Profits Duty. (In millions of pounds.)

Year ending March 31st.	Income Tax (with super-tax)	Excess Profits Duty
1912	48	24
1913	47	24
1914	49	24
1915	69	20
1916	122	28
1917	102	26
1918	140	21
1919	121	22
1920	129	22
1921	132	21
1922	133	20
1923 (estimate)	132	20

Third Report-

Colonial group.....	£ 2,285,000
Legal group.....	94,500
Revenue Departments.....	2,509,200
Houses of Parliament & Civil Department.....	955,000
Public Works Departments.....	895,800
Art & Science group.....	42,900
Foreign Office etc.	304,300
Stationery Office & Registration group.....	584,300
Miscellaneous group.....	1,150,300

8,782,300

Further review of estimates for War
Pensions since the first report..... 3,000,000

Grand Total 86,844,100

The Committee divided 1,146 million pounds, the total estimated expenditure of 1921-1922, into seven classes:- (1) Debt (2) Other charges on consolidated fund, (3) Pensions, (4) Aftermath other expenditures arising out of the war, (5) Fighting services, Middle East, (7) Other Civil expenditures.

The Committee states that the reduction of the first classes and also the sixth class in a large extent is impossible. means that, of the above total expenditure, 737 million pounds, almost two-thirds are irreducible. Of the remaining 409 million the Committee estimates that almost one-fifth can be saved.

The Geddes Report.

Reduction of the public expenditure, which the Geddes recommended to the British Government in their three reports:-

First Report-

War Pensions.....	£ 2,300,000
Health.....	2,500,000
Education.....	18,000,000
Air Force.....	5,500,000
Army.....	20,000,000
Navy.....	21,000,000

Adjustment on First Report

Second Report-

General (24 votes).....	102,000
Police & Prisons.....	1,295,000
Agricultural group.....	885,000
Export Credits.....	500,000
Treasury group.....	528,000

A summary of the recommended reduction is as follows

Navy.....	£ 21,000,000
Army.....	20,000,000
Air Force.....	5,500,000
Education.....	18,000,000
Health.....	2,500,000
War Pensions.....	66,300,000
Civil Services etc.....	13,500,000
<hr/>	
	86,800,000

In order to secure the £100 million, which the Committee entrusted to cut down from the total expenditure, the report expresses the confidence to attain the aim through a reduction in the Naval expenditure as a result of the Washington Conference, in the line of stocks and storage, and in the Military expenditure on the foreign garrisons.

地方財

Third Report-

Colonial Group.....	£ 2,285,000
Legal Group.....	24,200
Revenue Departments.....	£ 2,202,200
House of Parliament	
Civil Department.....	232,000
Public Works Department.....	822,800
Art & Science Group.....	42,200
Foreign Office etc.....	304,200
Stationery Office & Registration Group.....	284,200
Miscellaneous Group.....	£ 1,200,000

Further review of estimates for War Pensions since the first report..... £ 5,000,000

Grand Total..... £ 82,800,000

The Committee divided £146 million pounds, the total voted expenditure of 1921-1922, into seven classes:— (1) Debt (2) Other charges on consolidated funds, (3) Pensions, (4) Army other expenditures arising out of the war, (5) Fighting services, (6) Navy, (7) Other Civil Expenditures.

The Committee states that the reduction of the first class and also the sixth class in a large extent is impossible. It means that, of the above total expenditure, 737 million pounds almost two-thirds are irreducible. Of the remaining 602 million the Committee estimates that almost one-fifth can be saved.

	Year ending June 30.		Diffe
	1921 (Actual revenue)	1922 (Estimate)	
Customs.....	308,025	275,000	- 33,025
Estate tax.....	154,043	159,291	+ 5,248
Transportation & other facilities & insurance.....	320,504	299,551	- 20,953

大正元年度以降各年度

地方財政統計一斑

地方歳計 { 團體別 第一表
 歳入内容別 第二表
 歳出内容別 第三表

地方債 { 團體別 } 第四表
 并用途別

地方各團體稅收入一人當 第五表

調查局

Year ending June 30.
1921 (Actual revenue) 1922 (Estimate)

Customs.....	308,025	275,000
Income & Profits taxes.....	2,228,106	2,087,932
Estate tax.....	154,043	159,291
Transportation & other facilities & insurance.....	320,504	292,551

(一) 地方歲計 團體別

(八年變遷決算九年變以降)

年度	道 府 縣		郡		市 區		町 村		小 計		水利及土功組合		合 計
	歲入	歲出	歲入	歲出	歲入	歲出	歲入	歲出	歲入	歲出	歲入	歲出	
元	106,379,028	92,999,745	11,283,983	10,013,708	137,098,419	105,298,790	32,453,086	22,155,036	287,214,516	330,467,279	7,266,049	6,008,157	394,520,735
二	114,946,162	95,904,241	11,172,709	9,841,038	110,083,625	92,132,984	31,720,350	21,716,413	267,923,846	320,594,076	8,315,790	6,582,638	376,232,274
三	121,707,008	102,255,091	11,096,944	10,342,402	97,541,537	82,981,512	35,218,929	24,832,569	366,224,418	320,433,174	8,337,126	7,196,794	374,568,398
四	110,425,888	101,014,727	11,938,142	10,048,194	98,163,141	76,637,086	32,952,391	22,738,626	359,473,562	311,636,033	7,471,457	6,236,810	366,981,300
五	110,340,501	97,070,229	12,237,187	10,704,560	116,497,591	90,020,308	40,800,819	30,102,074	379,876,098	328,558,171	7,279,382	6,047,887	387,153,450
六	127,580,314	104,353,012	13,559,050	12,020,234	173,267,779	118,090,351	48,220,296	34,105,563	472,927,439	378,569,160	10,524,296	9,233,550	483,323,045
七	174,700,599	141,497,974	17,251,952	14,935,019	189,528,636	150,347,101	207,957,311	188,360,711	588,911,598	495,041,405	11,116,656	9,646,910	600,775,069
八	249,009,427	195,704,934	24,356,254	20,919,628	247,302,406	178,365,992	288,934,243	267,396,534	809,002,830	652,387,088	12,180,294	10,191,733	821,854,115
九	240,067,042	214,051,876	31,927,357	31,808,918	266,061,771	249,374,539	322,142,481	322,049,985	834,199,651	817,345,318	13,907,631	13,905,472	848,104,420
十	293,329,892	293,563,156	41,687,619	41,086,423	365,729,021	347,735,898	344,560,780	344,419,034	1,045,307,322	1,027,405,111	15,443,504	15,454,588	1,060,204,414
十一	335,568,453	335,414,429	55,532,461	55,529,489	387,602,003	367,138,312	398,528,556	378,434,069	1,177,232,573	1,156,576,299	19,902,788	19,902,195	1,197,134,778

備考 本統計ハ内務省地方局發行地方財政概要等ヨリ抄出ス、以下各表亦同ニ

Public Finance of the United States.

Revenue (In thousands of dollars.)

	Year ending June 30.		Difference
	1921 (Actual revenue)	1922 (Estimate)	
Customs.....	308,025	275,000	- 33,025
Income & Profits taxes.....	7,228,106	2,087,932	- 5,140,174
Estate tax.....	154,043	159,291	- 14,752
Transportation & other facilities & insurance.....	320,504	209,551	- 110,953

方 歲 計 團 体 別 (八年變遷決算九年定以降ハ豫算 以下做之)

郡	市		區		町		村		小 計		水利及土功組合		合 計										
	入	出	入	出	入	出	入	出	入	出	入	出	入	出									
3	100,370	137,058	419	105,298	790	32,453	086	122,158	036	387,214	516	330,467	279	7,266,049	6,008,157	394,480,565	336,475,400						
9	9,841,038	110,083,625	92,132,984	131,720,380	121,716,413	307,923,846	320,594,070	8,315,790	6,582,638	376,239,036	327,177,314	10,343,402	97,541,537	82,981,512	135,218,929	124,882,569	366,224,418	320,433,174	8,337,126	7,196,794	374,501,544	327,029,808	
2	10,048,194	98,163,141	76,637,086	132,980,391	122,708,626	359,473,502	311,035,033	7,471,457	6,236,810	366,945,019	317,872,444	7	10,704,560	116,497,591	90,020,308	140,800,819	130,102,074	379,876,098	328,558,171	2,279,382	6,047,887	387,155,480	334,000,088
50	2,020,234	173,267,779	118,090,361	158,220,296	144,105,563	472,927,427	378,509,160	10,524,296	9,233,550	483,457,735	387,802,710	2	4,836,619	189,526,036	150,347,001	207,957,311	188,360,711	588,711,598	495,041,405	11,116,656	9,646,910	600,028,284	504,688,315
4	209,962	247,303,406	178,366,992	288,934,243	267,396,834	809,002,830	652,387,088	12,180,294	10,191,733	821,844,124	662,578,821	5	31,868,918	266,061,771	249,374,539	322,142,481	322,049,985	834,199,681	817,345,318	13,907,031	13,906,472	848,107,282	831,250,790
9	4,080,423	365,729,021	347,736,898	344,560,780	344,419,034	1,045,307,322	1,027,405,111	18,453,504	18,454,588	1,060,760,826	1,042,869,699	6	55,529,489	387,602,103	367,138,312	398,528,586	378,424,069	1,177,232,573	1,156,576,299	9,902,788	9,902,196	1,177,138,361	1,170,418,498

地方財政概要第31抄出ス、以下各表亦同上

Customs.....	308,025	275,000
Income & Profits taxes.....	7,228,106	8,087,900
Estate tax.....	154,043	139,290
Transportation & other facilities & insurance.....	320,504	299,550

(二) 地方歲計 歲入內容別

年度	地 方 歲 計									歲 入 內 容 別						
	地租附加稅	國稅營業稅附加稅	所得稅附加稅	戶數制及同附加稅	房屋稅及同附加稅	道前縣營業稅及同附加稅	雜項稅及同附加稅	其他諸稅	計	財產收入	使用料及手数料	補助及交付金	寄付金	公債	前年度繰越金	其他收入
元	48,945,296	8,204,460	7,127,100	79,252,239	8,853,846	11,657,537	10,668,282	19,683,138	194,391,888	6,552,980	21,324,928	1,954,712	7,995,482	33,971,993	63,663,604	47,034,978
二	46,901,343	8,223,304	6,316,470	76,107,033	9,068,387	5,186,497	17,211,567	19,911,460	189,926,663	7,894,248	26,821,543	21,647,613	7,444,533	24,887,209	57,637,617	37,980,210
三	46,756,990	8,601,924	6,417,085	75,476,867	9,424,965	6,197,237	17,555,374	19,596,006	190,126,428	7,515,275	28,887,072	24,479,364	6,932,700	29,993,025	48,073,980	38,553,700
四	44,620,916	6,450,186	6,379,364	74,745,007	9,258,355	7,136,937	18,581,611	20,609,584	187,581,960	9,418,799	32,712,934	24,583,182	6,617,917	24,272,042	46,164,353	36,397,066
五	45,369,899	7,020,399	7,705,703	79,178,579	9,375,422	7,306,646	19,646,445	21,975,585	197,578,678	9,248,594	35,326,882	21,552,635	7,224,110	26,039,145	47,337,639	42,845,797
六	50,552,362	8,302,344	12,348,799	89,087,751	10,551,685	7,597,751	21,597,236	25,477,429	226,125,247	12,070,249	42,889,771	22,758,386	10,046,628	71,825,501	48,665,227	49,080,726
七	57,462,503	10,622,100	21,300,823	113,296,254	12,543,946	9,013,692	25,586,394	32,202,037	282,027,749	14,040,291	51,738,230	39,124,093	17,480,574	25,853,356	93,526,598	76,236,763
八	81,388,487	18,869,130	36,159,240	154,860,492	16,125,301	11,989,972	40,960,006	43,637,853	403,982,481	21,077,565	62,475,215	51,307,446	21,629,744	80,002,708	95,001,054	85,767,911
九	77,227,701	20,644,533	36,667,780	210,077,423	21,320,603	14,038,826	45,520,539	59,009,267	484,552,672	17,962,223	71,102,265	60,517,037	17,463,925	77,744,266	43,490,126	70,210,178
十	117,001,141	42,233,926	19,529,046	213,277,399	27,007,772	17,038,680	63,376,740	70,292,152	570,357,062	17,704,749	110,943,881	76,700,811	21,052,600	57,087,587	47,852,917	59,001,219
十一	122,590,369	52,771,482	24,038,204	236,116,773	29,047,618	18,489,267	77,912,106	82,155,318	643,121,127	21,704,972	127,158,180	91,021,341	27,966,151	128,905,374	71,413,541	185,844,675

市町村分賦額合計

Public Finance of the United States.

Revenue (In thousands of dollars.)

	Year ending June 30.		Difference
	1921 (Actual revenue)	1922 (Estimate)	
Customs.....	308,025	275,000	- 33,025
Income & Profits taxes.....	2,228,106	2,087,932	- 1,40,174
Estate tax.....	154,043	159,291	+ 5,248
Transportation & other facilities & insurance.....	320,504	299,851	- 20,653

費	役場又 役所費	電氣及瓦斯 事業費	計					歲出總計
			公債費	衛生費	警察費	勸業費	其他諸費	
0410	30,085,523	其他諸費中-含4	24,749,550	23,442,246	10,428,784	13,477,800	93,09,322	330,475,430
2508	30,585,064	25,846,182	29,184,088	22,824,942	10,409,918	14,852,899	53,124,447	327,177,314
944	31,445,258	19,146,117	32,484,434	19,644,347	17,031,059	13,391,307	54,929,415	327,629,908
958	31,793,943	14,708,278	29,717,855	20,015,789	17,187,303	13,485,192	55,430,903	317,872,443
035	32,134,420	14,415,091	48,931,492	22,900,100	17,885,833	14,296,580	56,827,093	334,600,058
306	35,500,322	37,473,527	41,248,913	23,482,781	19,341,523	14,225,579	71,475,752	387,802,710
293	44,038,070	25,775,777	59,135,342	28,349,548	25,092,053	21,696,337	102,621,744	504,088,315
699	67,329,775	39,639,937	40,765,408	42,708,847	38,202,821	28,413,017	128,722,025	662,578,821
983	78,035,652	57,612,552	51,375,056	56,846,801	41,055,996	31,330,242	189,756,305	831,250,790
473	85,813,930	111,908,030	70,239,206	71,005,041	60,014,801	46,788,866	152,437,615	1,042,859,099
076	94,735,097	94,189,328	80,723,151	79,830,470	65,314,099	56,401,746	173,382,118	1,176,418,495

Revenue (In thousands of dollars.)

Year ending June 30.

1921 (Actual revenue) 1922 (Estimate)

Customs	2,228,106	2,088,932
Income & Profits taxes	154,043	130,291
Estate tax	320,504	298,551
Transportation & other facilities & insurance		

(三) 地方 歲計 歲出內容別

年度	教育費	土木費	役場及役所費	電氣及瓦斯事業費	公債費	衛生費	警察費	勸業費	其他諸費	歲出總計
元	82,102,801	52,539,410	30,685,523	其他諸費中-含4	24,749,550	23,442,246	16,528,782	13,517,800	92,093,322	330,575,5
二	78,601,606	55,687,508	30,585,064		29,184,088	22,824,942	15,409,918	14,852,899	53,244,447	327,77,0
三	76,847,087	62,710,944	31,445,258		32,484,434	19,044,347	17,031,059	13,391,307	54,929,415	327,629,9
四	78,001,222	57,525,958	31,793,943		29,717,855	20,015,789	17,187,303	13,485,192	55,430,903	317,872,4
五	81,917,408	45,292,035	32,134,420		48,931,492	22,900,000	17,885,833	14,296,580	56,827,093	334,600,0
六	93,547,007	51,507,306	35,500,322		41,248,913	23,482,781	19,341,523	14,225,579	71,475,752	387,802,7
七	126,118,551	71,260,293	44,038,070		59,135,342	28,349,548	25,092,653	21,096,337	128,722,025	504,088,3
八	181,089,292	95,645,699	67,329,775		40,765,408	42,708,477	38,202,821	28,413,017	189,750,305	831,250,7
九	224,466,603	100,770,983	78,035,652		51,375,050	56,840,801	41,055,990	31,330,242	152,437,015	1,042,859,0
十	287,299,131	155,952,473	85,813,936		70,239,200	71,605,021	60,014,801	46,788,866	173,382,118	1,176,418,4
十一	327,321,204	204,520,076	94,735,097		80,723,151	79,830,470	65,314,099	56,401,740		

Revenue (In thousands of dollars.)

	Year ending June 30.	
	1921 (Actual revenue)	1922 (Estimate)
Customs.....	308,025	275,000
Income & Profits taxes.....	3,228,106	2,087,952
Estate tax.....		170,291
Transportation & other facilities & insurance.....	320,504	299,551

(四) 地方債

各年度末現在

年 度	團 體 別					計	用 途 別						
	道府縣債	郡 債	市區債	町村債	水利及 土功組合債		教育費	土木費	電氣 事業費	衛生費	勸業費	其他	
元	37,321,205	2,161,396	247,621,918	130,189,774	6,833,531	306,957,524	4,682,816	9,002,128	132,618,449	48,581,808	15,244,299	2,700,054	30
二	44,198,167	2,283,318	251,096,878	1,209,027	7,835,762	316,023,162	12,473,001	98,897,802	132,712,496	51,532,773	7,254,904	3,678,126	316
三	49,582,346	1,922,384	255,718,258	2,001,349	8,377,776	326,002,113	11,708,852	104,301,982	134,315,349	55,091,274	6,277,000	5,072,250	326
四	54,471,515	1,844,720	260,005,345	1,640,050	8,967,059	336,889,789	10,335,420	110,558,901	136,959,458	58,213,097	6,900,429	6,221,478	336
五	52,929,419	1,874,480	265,570,734	1,602,128	8,847,166	339,793,927	9,500,533	105,017,851	124,200,567	58,623,375	15,286,789	7,559,812	339
六	57,307,118	1,854,234	301,432,089	1,272,014	9,182,503	371,248,958	10,221,103	123,305,022	109,284,837	70,800,944	14,970,065	8,041,447	377
七	58,559,476	1,816,734	308,459,595	1,673,023	9,082,554	389,591,282	13,257,767	105,205,384	123,404,412	76,970,772	13,244,087	7,572,260	389
八	69,523,711	2,870,202	326,685,493	1,497,913	10,141,423	411,720,742	18,006,489	115,204,448	140,720,335	75,750,531	15,072,274	2,779,015	424
九	110,064,382	3,788,220	350,247,928	29,008,079	9,800,710	509,559,319	29,709,919	155,449,827	197,571,138	83,475,088	3,171,391	40,241,350	509
十	132,824,507	4,364,596	465,707,705	39,113,095	12,337,020	654,407,053	47,305,940	200,730,742	230,200,909	14,001,880	6,447,294	44,015,088	654

Public Finance of the United States.

Revenue (In thousands of dollars.)

	Year ending June 30.		Difference
	1921 (Actual revenue)	1922 (Estimate)	
Customs.....	308,025	275,000	- 33,025
Income & Profits taxes.....	1,828,106	2,007,932	+ 1,799,826
Estate tax.....	154,043	149,291	- 4,752
Transportation & other facilities & insurance.....	320,504	209,551	- 110,953

地方債

各年度末現在

別

用

途

別

市區債	鄉村債	水利 土功 組合債	計	教育費	土木費	電氣 事業費	衛生費	勸業費	其他	計
247,621.918	130,897.74	6,833.531	300,957,024	14,082,916	9,002,138	132,018.49	28,581,868	5,244,299	2,706,054	300,957,024
251,096.878	11,209,027	7,835,762	316,023,162	12,473,001	98,871,802	132,712,296	51,532,773	7,254,904	3,578,126	316,023,162
254,718.258	2,001,349	8,377,776	326,002,113	11,708,852	104,361,782	134,315,349	58,091,274	6,277,000	5,167,250	326,002,113
260,005,345	1,520,550	8,967,059	336,889,789	10,357,200	110,558,901	130,759,458	58,213,097	5,900,229	5,221,278	336,889,789
265,520,734	10,602,128	8,847,166	339,792,927	9,500,533	105,011,851	144,260,507	58,523,715	15,286,789	7,059,812	339,792,927
301,203,089	10,712,014	9,182,503	377,319,218	10,221,103	103,735,022	109,284,837	70,866,944	14,970,065	8,041,447	377,319,218
308,259,595	11,673,023	9,082,552	389,591,282	13,257,707	105,255,984	113,404,112	76,970,772	13,224,087	7,572,260	389,591,282
326,685,293	14,919,913	10,411,223	424,389,742	18,000,789	115,204,448	180,726,336	75,750,531	15,072,274	2,779,015	424,389,742
350,247,928	29,008,079	9,850,710	509,559,319	29,709,919	155,449,827	197,571,388	83,275,088	3,711,391	20,221,356	509,559,319
465,707,76	39,113,095	12,337,020	654,407,053	47,306,940	200,736,742	230,200,909	14,001,880	6,227,294	24,015,088	654,407,053

Revenue (In thousands of dollars.)

	Year ending June 30.		Difference
	1921 (Actual revenue)	1922 (Estimate)	
Customs.....	308,025	275,000	- 33,025
Income & Profits taxes.....	7,228,106	2,087,932	- 5,140,174
Estate tax.....	154,043	159,291	+ 5,248
Transportation & other facilities & insurance.....	320,504	209,551	- 110,953

地方各團體稅收入一人當り

郡	市	區	町	村	總平均	年度		
0	1	2	1	964	3	352	元	
0	164	2	380	1	800	3	175	二
0	101	2	323	1	800	3	045	三
0	157	2	242	1	770	3	040	四
0	165	2	450	1	940	3	104	五
0	156	2	833	2	132	3	037	六
0	240	3	591	2	026	4	555	七
0	330	4	888	3	848	6	292	八
0	5.2	0	151	4	989	7	048	九
0	690	8	007	5	535	9	379	十
0	817	9	475	6	199	10	522	十一

村 = 八賦額 = 1

Customs.....	308,025
Income & Profits taxes.....	7,228,106
Estate tax.....	194,043
Transportation & other facilities & insurance.....	320,504

(五) 地方各團體稅收入一人當り

年度元	道府縣		郡		市區		町村		總平均		年度元
	月	額	月	額	月	額	月	額	月	額	
二	1	343	0	170	2	623	1	964	3	352	元
三	1	273	0	164	2	380	1	800	3	175	二
四	1	204	0	101	2	323	1	800	3	045	三
五	1	181	0	157	2	242	1	770	3	040	四
六	1	222	0	165	2	450	1	940	3	104	五
七	1	379	0	156	2	833	2	132	3	637	六
八	2	785	0	240	3	591	2	020	4	555	七
九	2	480	0	330	4	888	3	848	6	292	八
十	3	564	0	512	0	151	4	989	7	048	九
十一	3	519	0	690	8	007	5	535	9	379	十
十二	3	913	0	817	9	476	6	199	10	522	十一

市町村 = 分賦額 = 分

Public Finance of the United States.

Revenue (In thousands of dollars.)

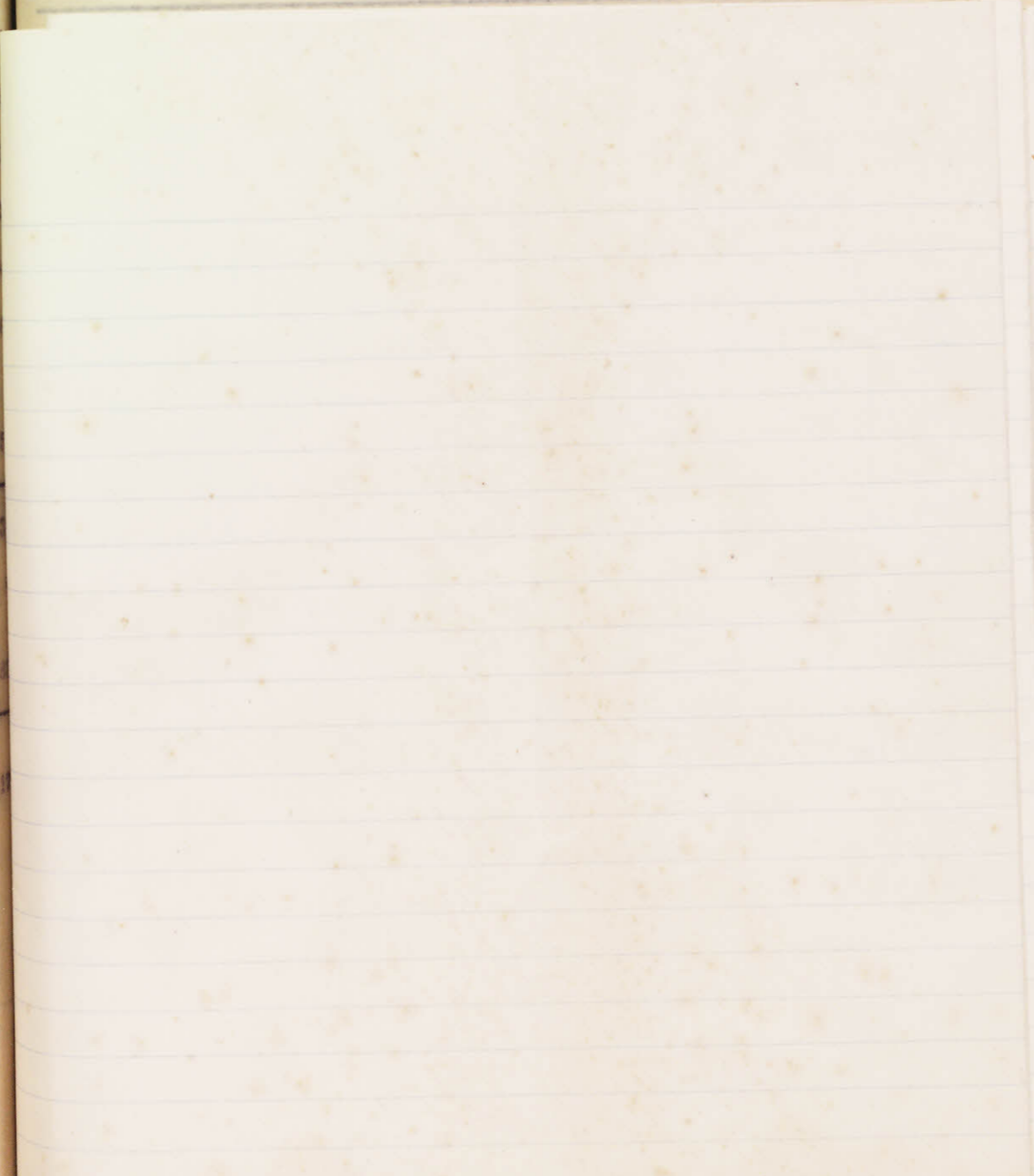
	Year ending June 30.		Difference
	1921 (Actual revenue)	1922 (Estimate)	
Customs.....	308,025	275,000	- 33,025
Income & Profits taxes.....	2,228,106	2,087,932	- 1,401,774
Estate tax.....	154,043	139,291	- 14,752
Transportation & other facilities & insurance.....	320,504	299,554	- 110,950
Beverage of all kinds.....	141,239	79,089	- 62,150
Cigars, Cigarettes, &.....	253,930	269,771	+ 15,841
Admissions & dues.....	25,891	79,383	- 15,492
Excise taxes.....	229,323	174,297	- 55,026
Special taxes.....	92,511	91,363	- 1,148
Stamp taxes, &.....	72,468	58,799	- 13,669
Employment of child labour,.....	24	45	-
Miscellaneous internal revenue.....	7,138	7,756	+ 618
<i>and customs</i> Total internal revenue.....	4,903,382	3,472,447	- 1,430,935
Sales of public land.....	1,500	1,500	-
Revenue from other miscellaneous sources.....	679,635	478,953	- 200,682
Grand total.....	5,584,517	3,952,900	- 1,631,617

The above total are exclusive of public ^{loans} debt, postal revenue and Panama Canal tolls.

Total	320,504	299,554	- 110,950
-------	---------	---------	-----------

A summary of the recommended reduction is as follows:

Army.....	2,000,000,000
Air Force.....	2,500,000,000
Education.....	18,000,000,000
Health.....	2,300,000,000
War Relocation.....	68,300,000,000
Civil Services.....	13,200,000,000



Percentage of Various Sources of Revenue to the Total Internal Revenue & Customs Receipts.

	1921	1922
Customs.....	6 %	8 %
Income tax.....	66 "	60 "
Estate ".....	3 "	4 "
Transportation, &c.....	6 "	6 "
Beverage.....	3 "	2 "
Cigars & cigarettes.....	5 "	8 "
Admissions.....	2 "	2 "
Excise taxes.....	5 "	3 "
Special ".....	2 "	5 "
Stamp ".....	1 "	2 "
Employment of child labour..	0 "	0 "
Miscellaneous.....	1 "	2 "
	100 "	100 "

The Items of ^{A.} Transportation & Insurance Taxes, ^{B.} Excise Taxes, & Special Taxes. (In thousands of dollars)

	1921	1922	Difference
A. Taxes on transportation & insurance;			
Freight.....	140,094	85,292	-54,727
Express.....	17,092	12,476	-4,618
Passengers.....	97,482	58,042	-39,440
Seats berths & staterooms.....	8,487	5,992	-2,495
Oil by pipe lines.....	9,990	7,624	-2,366
Teleg. teleph. & radio.....	27,360	28,086	+ 726
Leased wires.....	1,082	1,185	+ 103
Insurance.....	18,992	10,855	-8,137
Total	320,504	209,552	-110,952

Revenue

	1921	1922
Internal Revenue	209,552	209,552
Customs	25,000	25,000
Excise Taxes	15,000	15,000
Special Taxes	10,000	10,000
Stamp	5,000	5,000
Employment of child labour	0	0
Miscellaneous	5,000	5,000
Total	320,504	209,552

	1921	1922	Difference
Freight	140,094	85,292	-54,727
Express	17,092	12,476	-4,618
Passengers	97,482	58,042	-39,440
Seats berths & staterooms	8,487	5,992	-2,495
Oil by pipe lines	9,990	7,624	-2,366
Teleg. teleph. & radio	27,360	28,086	+ 726
Leased wires	1,082	1,185	+ 103
Insurance	18,992	10,855	-8,137
Total	320,504	209,552	-110,952

R

B, Excise taxes;	1921	1922	Difference
Automobiles, &c.....	115,546	104,430	-11,116
Pianos, organs, &c.....	11,568	4,952	-6,616
Tennis rackets, &c.....	4,284	2,215	-2,069
Chewing gum.....	1,332	743	-589
Cameras.....	850	682	-168
Photographic films.....	1,045	744	-301
Candy.....	20,437	13,592	-6,845
Firearms, &c.....	3,703	3,375	-328
Hunting & bowie knives.....	34	22	-12
Dirk knives, daggers, &c.....	2	7	+5
Electric fans.....	298	125	-173
Thomas bottles.....	176	89	-87
Cigar holders, &c.....	152	165	+13
Automatic slot-device.....	101	89	-12
Liveries, livery boots, &c.....	151	112	-39
Hunting garments.....	9,081	6,524	-2,557
Yachts, &c.....	553	399	-154
Toilet soap & powders.....	2,224	1,325	-899
Motion-picture films.....	6,008	5,679	-329
Sculpture, paintings, &c.....	1,116	574	-542
Carpets & rugs, picture frames, &c.....	20,375	8,411	-11,964
Jewelry, watches, &c.....	24,304	19,509	-4,795
Perfumes, cosmetics, &c.....	5,801	2,305	-3,496
Total	229,323	174,297	-55,026

16

Percentage of Various Branches of Revenue to the Total Internal Revenue & Customs Receipts

1921	1922	1921	1922
Customs	100	100	100
Income tax	100	100	100
Excise taxes	100	100	100
Special	100	100	100
Stamp	100	100	100
Equipment of child labor	100	100	100
Miscellaneous	100	100	100
The items of Transportation & Insurance Taxes			
Special Taxes			
Taxes on transportation & insurance			
1921	1922	1921	1922
Freight	100,000	100,000	100,000
Express	100,000	100,000	100,000
Passengers	100,000	100,000	100,000
State debts & state debts	100,000	100,000	100,000
Oil by pipe lines	100,000	100,000	100,000
Tele. teleph. & radio	100,000	100,000	100,000
Leased wires	100,000	100,000	100,000
Insurance	100,000	100,000	100,000
Total	100,000	100,000	100,000

Special taxes;	1921	1922	Difference
Corporations on value of capital stock.....	81,526	80,581	-945
Brokers.....	1,966	1,929	- 37
Theatres, museums & concerts	1,562	1,712	+ 150
Circuses, entertainment, &c..	141	138	- 3
Bowling alleys, billiards, &c	2,368	2,472	104
Shooting galleries.....	23	21	- 2
Riding academies.....	17	13	- 4
Passenger automobile for hire	1,776	1,775	- 1
Use of yachts, &c	731	498	-233
Cigar manufactures.....	713	615	- 48
Cigarette "	410	310	-100
Tabacco "	106	63	- 43
Importers, dealers, &c of opium, cocoa leaves &c....	1,170	1,238	+ 68
Total	92,511	91,363	+ 1,148

1921	1922	Difference	
Automobiles, &c.....	104,430	118,248	+ 13,818
Shoes, &c.....	4,222	11,222	+ 7,000
Tablets, &c.....	2,212	2,222	+ 10
Gasoline, &c.....	742	1,222	+ 480
Cameras.....	222	222	0
Photographic films.....	742	1,022	+ 280
Gandy.....	12,222	20,222	+ 8,000
Watches, &c.....	2,222	2,222	0
Knives & bowie knives.....	22	22	0
Dir knives, daggers, &c.....	7	7	0
Electric fans.....	122	222	+ 100
Thomas bottles.....	22	172	+ 150
Gig holders, &c.....	122	122	0
Automatic slot-machine.....	22	102	+ 80
Liveries, livery beds, &c.....	112	102	- 10
Hunting garments.....	222	222	0
Yachts, &c.....	222	222	0
Toilet soap & powders.....	222	222	0
Hollow-picture films.....	222	222	0
Sculpture, paintings, &c.....	222	222	0
Carpets & rugs, picture frames, &c.....	222	222	0
Jewelry, watches, &c.....	222	222	0
Perfumes, cosmetics, &c.....	222	222	0
Total	174,222	222,222	+ 48,000

115

Expenditure. (In thousands of dollars)			
	1921 (Actual)	1922 (Estimate)	Difference
Ordinary expenditure not subject to Executive control:			
Legislative.....	18,994	16,174	- 2,820
Ordinary expenditure of government subject to Executive control:			
Executive Office.....	197	206	+ 9
State Department.....	8,780	17,015	+ 8,235
Treasury Department.....	147,760	134,422	- 13,338
War Department--			
War Department proper:			
Panama Canal.....	1,101,615	389,020	- 712,595
Navy Department.....	16,461	5,349	- 11,112
Interior Department--			
Interior Department, Exclusive of Indian service & pensions.....	39,687	36,840	- 2,847
Indian Service....	41,470	33,135	- 8,335
Post Office Department.....	5,230	3,519	- 1,711
Department of Agriculture..	62,385	49,694	- 12,691
Department of Commerce....	30,828	20,041	- 10,787
Department of Labour.....	8,502	5,317	- 3,185
Department of Justice.....	3,869	3,310	- 559
Judicial.....	13,337	13,878	+ 541
Independent office			
U.S. Veterans' Bureau.....	371,681	477,474	+ 105,793
Shipping Board.....	130,723	73,928	- 56,795
Vocational Education.....	3,622	4,765	+ 1,143
All other.....	15,271	16,886	+ 1,615
District of Columbia.....	22,558	22,745	+ 187
Deduct repayment, &c.....	922		+ 922
	<u>2,673,435</u>	<u>1,765,875</u>	<u>- 907,560</u>
Deficiencies in postal revenue	130,128	70,598	- 59,530
Operation in capital funds heretofore designated as ordinary expenditures:			
Railroad Administration & transportation act, 1920...;	730,711	56,000	- 674,711
War Finance Corporation....	22,028	189,721	+ 211,749
Grain Corporation.....	90,353	7,000	- 83,353
Sugar Equalization Board(Inc.)		13,605	- 13,605
	<u>799,056</u>	<u>127,116</u>	<u>- 671,940</u>

1921	1922	Difference
182,881	182,881	
1,222	1,222	
1,712	1,712	
128	128	
2,872	2,872	
12	12	
13	13	
1,772	1,772	
822	822	
122	122	
110	110	
123	123	
1,228	1,228	
1,222	1,222	
<u>91,222</u>	<u>91,222</u>	

Expenses fixed by Congress not
 subject to modification by
 Executive control:
 Customs and Internal Revenue
 Land...
 Postoffice...
 Goods...
 Increase of expenditure...
 Purchase of obligation of
 foreign governments...
 War loan bonds...

The above total are exclusive of public debt
 and investments of trust funds.

1921
 25,000
 100,000
 200,000
 300,000

1921
 100,000
 200,000
 300,000
 400,000

経済政策部

大正十一年十一月

大正十二年度豫算ノ概要（推算）

本月九日閣議ニ於テ大体方針ノ決定ヲ見タル大正十二年度豫算ハ前年度
 ニ比シ歳出入共一億三千二百萬圓ノ減少ニシテ未タ詳細ノ數字ハ明カナ
 ラサルモ其主ナル異動ハ一應左ノ如ク推算セララル

一、三、五、〇、〇、〇、〇	一、四、〇、〇、〇、〇	一、三、八、〇、〇、〇	一、三、二、〇、〇、〇
△	△	△	△
一、三、五、〇、〇、〇	一、四、〇、〇、〇、〇	一、三、八、〇、〇、〇	一、三、二、〇、〇、〇
△	△	△	△

(註) A 内務省事務費公債二五、五九〇、〇〇〇圓
 國債事務費公債六、五一〇、〇〇〇圓
 農林省事務費公債一、〇〇〇、〇〇〇圓
 陸軍省事務費公債一、〇〇〇、〇〇〇圓
 海軍省事務費公債一、〇〇〇、〇〇〇圓

各省事務費公債ノ額ニ付テハ各省ノ事務費ノ額ニ依リテ決定スルベシ

マセハ其主マハ異議ハ一顧主ノ成ル兼算ナリ
 ニ其ノ歳出入共一歳三千二百萬圓ノ減少ニシテ未ク精算ノ通算ハ四六
 本且其日開辦ニ付テ大村次檢ノ宛安マ良クハ大五十二半期算算ハ前半期

大五十二半期算算ノ概要（兼算）

大五十一半十一日

歳入

種目	經常部			臨時部			歳入總計	比較増減 (△)		
	租稅收入	印紙收入	官業及官有財産收入	其他	計	普通歳入			公債	前年度剩餘金繰入
大正十二年度豫算	七二〇,〇〇〇	八〇,〇〇〇	三五七,〇〇〇	七九,〇〇〇	一,二三六,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	五四,〇〇〇	一,三五四,〇〇〇	△一,三三二,〇〇〇
大正十一年度決定豫算	七三四,〇〇〇	八三,〇〇〇	三四八,〇〇〇	七九,〇〇〇	一,二四四,〇〇〇	五九,〇〇〇	五五,〇〇〇	一二四,〇〇〇	一,四三八,〇〇〇	△一,一二四,〇〇〇
	△一四,〇〇〇	△三,〇〇〇	〇	〇	△八,〇〇〇	△二九,〇〇〇	△二五,〇〇〇	△七〇,〇〇〇		

(單位千圓)

(註) A 内譯電話事業公債二三,五九〇,〇〇〇圓電信事業公債六,五一〇,〇〇〇圓ニシテ從來公債財源ニヨリタル諸學校創設擴張費及